Ｉ０１－０１

研究報告　　第４０６号

どの子も「わかる」「できる」授業づくり・学級経営の充実をめざして

－学校生活のユニバーサルデザインの視点をふまえて－

平成２５年３月

千葉県総合教育センター

どの子も「わかる」「できる」授業づくり・学級経営の充実をめざして

～学校生活のユニバーサルデザインの視点をふまえて～

千葉県総合教育センター
特別支援教育部
研究指導主事　相川　利江子　千田　茂
指導主事　川嵜　洋子　藺牟田　明

１　主題設定の理由

特殊教育から特別支援教育へ転換して５年が経過し，小・中学校及び高等学校においても，学習上や生活上に困難を抱えている児童生徒に対する指導や支援は徐々に広がりを見せている。しかし，本センターに教育相談に来る児童生徒の学校での様子等からは，特別な教育的なニーズがありながら，十分な指導や支援が受けられずに成績が低下したり，学級で孤立してしまったりする現状がある。

平成 24 年度に 10 年ぶりに実施された文部科学省の調査では，知的発達に遅れはないものの学習面や行動面で著しい困難を示すと担任が回答した児童生徒の割合は約 6.5%，35 人学級に換算すると１クラス当たり 2～3 人在籍するという結果であった。さらに，本調査に係わった協力者会議座長の大南は「これ以外にも，何らかの困難を示していると教師が捉え，教育的支援を必要とする児童生徒がいる可能性がある。」と述べている。また，発達障害の可能性がありながら，38.6%が何も支援を受けていないであろうという報告もされている。

千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課から出された「平成 24 年度幼稚園・小学校・中学校・高等学校における特別支援教育の充実に向けて」の中にも，『授業を実施するに当たっては，障害の有無にかかわらずどの幼児児童生徒にとってもわかりやすい授業を実践するためには，ユニバーサルデザインに配慮した取り組みが望まれる』とあるが，周知されていない現状がある。

これらの課題に対応するためには，特別な教育的ニーズが必要な児童生徒に対する指導や支援を拡大し，誰にでもわかりやすい，わかったと実感できる授業づくり，誰でも参加できる学級集団づくり，言い換えれば，学校生活のユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりや学級経営に各学校で取り組んでいく必要があると考える。

そのため，平成 24 年度から３年計画で，小・中・高等学校及び特別支援学校において，どの子も「わかる」「できる」と実感がもてる授業づくりと学級経営の充実に向けた調査研究に取り組むこととした。研究１年目は，小・中・高等学校及び特別支援学校への質問紙調査を実施して，学校生活のユニバーサルデザインの視点をふまえた授業づくりや学級経営についての実態を把握し，研究２年目は研究協力校を中心に実践研究を行う計画である。そして，研究３年目にはガイドブックにまとめて，小・中・高等学校及び特別支援学校での指導や支援に活かせる情報として提供したいと考えている。

本調査研究では，「学校生活のユニバーサルデザイン」を図１のように考える。

どの子にも理解できる，見通しがもてる学習環境を作るという視点から授業を見直すことで，どの子にも「わかる」「できる」と実感できるような「わかる授業」につながり，どの子もやる気がもてて自主的に参加するような「できる授業」につながる。また，認め合い相互に支え合うことができるように，学級のルールづくり等の教室環境を整えることで，学級経営の充実につながる。さらにこうした指導，支援を総合的に進めることにより，学校生活の充実にもつながると考える。

そこで，授業づくりと学級づくりの両面から，「いつでも」「どこでも」「だれにでも」有効で利用可能な支援を学級全体に行うことで，学校生活の充実を図ることができるであろうと考え，本研究テーマを設定した。

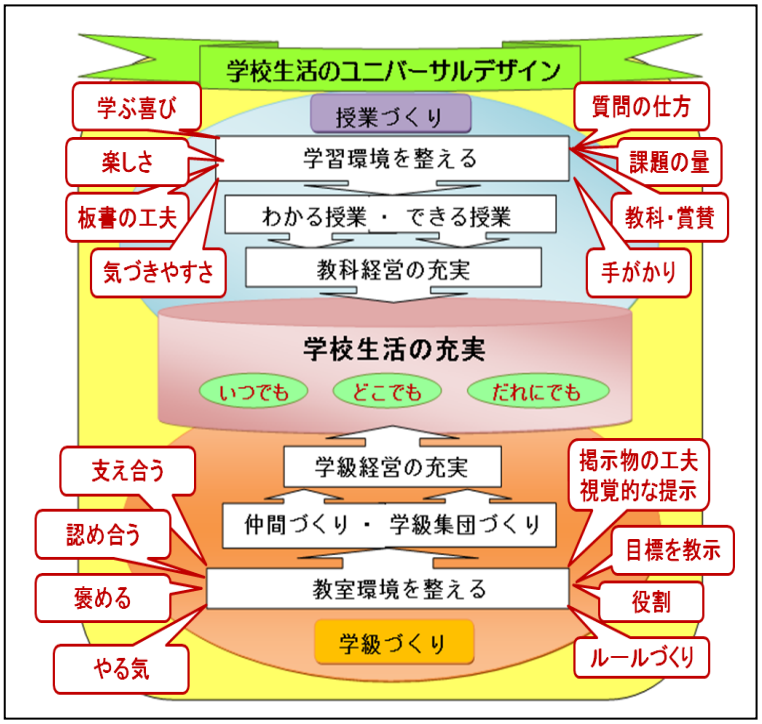


図１　学校生活のユニバーサルデザイン

２　研究計画

(1)　研究の目的

①　小・中・高等学校及び特別支援学校において，どの子も「わかる」「できる」と実感できる授業・学級づくりの在り方を探る。

②　児童生徒の実態，担任や教科担当者等の授業づくり，学級経営の実態等を学校生活のユニバーサルデザインの視点から把握し，それに基づく具体的な指導や支援の方法や内容を明らかにする。

(2)　研究の方法及び内容

①　質問紙調査実施

ア　調査対象

千葉市を除く全県域の通常学級等の約１割に当たる学級を無作為に抽出し，小学校 1,033 人，中学校 405 人，高等学校 287 人，特別支援学校 112 人，合計 1,837 人の学級担任に依頼し，99.8％回収した。

イ　調査方法

県および各市町村教育委員会を通して依頼配付し，FAX にて回答する質問紙法

ウ　調査期間

平成 24 年 9 月 20 日～10 月 26 日

エ　調査内容

学校生活のユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や学級集団づくりについての実態を把握することを目的とし，本千葉県総合教育センター特別支援教育部が平成 21 年度に作成した「LD 児等行動兆候チェックリスト」，平成 23 年度に作成した「行動の気になる生徒のチェックリスト」をもとに特別な支援や配慮が必要な児童生徒への支援項目を挙げた。そして，Center for Applied Special Technology

（CAST）の「学びのユニバーサルデザイン・ガイドライン（Ver2)」の項目を参考にしながら絞り込んでいき，具体的な支援を 40 項目のチェックリストとした。

質問紙調査内容
○回答者のプロフィール ○学級内に特別な支援や配慮を必要と感じているか実態調査 ○具体的な支援についての意識，実施の実態調査(40 項目のチェックリスト) ○学校生活のユニバーサルデザインについての意識調査 ○具体的なアイデアを自由記述

オ　次年度の実践研究の参考にするため，研究協力員の在籍校 8 校で 269 人に独自に質問紙調査を実施し，分析した。

② 研究協力員会議の実施

ア　研究協力員の構成

研究協力員は，本研究が地域に浸透することをねらいとして，千葉市を除く全県域から選出した。特別支援教育課指導主事１名，教育事務所指導主事２名，小学校教諭２名，中学校教諭２名，高等学校教諭２名，特別支援学校教諭２名の計 11 名で構成し，年間 5 回研究協力員会議を実施することとした。

イ　講師

独立行政法人国立特別支援教育総合教育研究所　教育情報部
発達障害教育情報センター　総括研究員　梅田真理

ウ　年間計画

	日　　時	内　　容
第１回	7 月 12 日(木)	○研究の進め方について ・質問紙調査に実施について ・研究協力校での実践研究について ○講師から情報提供
第２回	8 月 31 日(金)	○質問紙調査内容検討 ・調査の方法について ・分析方法について ○講師から情報提供
第３回	11 月 15 日(木)	○質問紙調査結果について ・全県域の結果報告 ・研究協力員からの報告 ○講師から助言
第４回	12 月 13 日(木)	○2 年次の実践研究に向けて ・チェックリストをもとに具体的な支援について検討
第５回	1 月 18 日(金)	○1 年次の成果と課題 ○2 年次の実践研究に向けて ○講師から助言

③　研究協力校での実践研究（研究２年次）

ア　研究協力校

小・中・高等学校・特別支援学校から各１校

イ　取り組み内容

a　支援シートの作成

b　学校生活のユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や学級集団づくりの実践

④　ガイドブックの作成(研究３年次)

研究１年次の質問紙調査の分析，研究２年次の研究協力校での実践研究を基にガイドブックを作成する。

３　本年度の研究概要

研究１年目である本年度は，小・中・高等学校及び特別支援学校への質問紙調査を実施して，学校生活のユニバーサルデザインの視点をふまえた授業づくりや学級経営についての実態を把握し，どの子も「わかる」「できる」授業づくりや学級経営に向けて指導や支援の具体化についての現状と課題をまとめた。

(1)　質問紙調査の結果

①　学習面や行動面で特別な支援や配慮が必要と思われる児童生徒数（図２）

ア　35 人学級に換算すると学級内に 2～3 人在籍するという文部科学省の調査結果を上回り，それ以上在籍すると感じている学級が多い。

イ　小学校では 95%，中学校では 93%と，ほとんどの教師が，学級に支援や配慮をする児童がいると感じている。

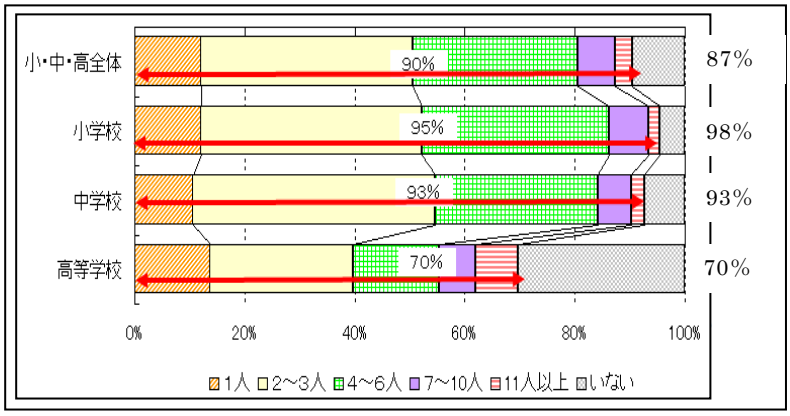


図２　学習面や行動面で特別な支援や配慮が必要と思われる児童生徒数

ウ　高等学校では，学校により支援や配慮を必要としている生徒の人数等に違いはあるが，70%の教師が支援や配慮を必要とする生徒が学級内にいると感じている。

②　特別な支援や配慮が必要な面（図３）

ア　小・中・特別支援学校では，特別な支援や配慮が必要な面として学習の回答が最も多かった。高等学校では対人関係の回答が最も多かった。

イ　対人関係やコミュニケーションに特別な支援が必要とすると回答した人数は，合わせると各学校種でかなり多くなっている。集団の中では，友達との関係等に課題を抱えている児童生徒が多いことが予想される。

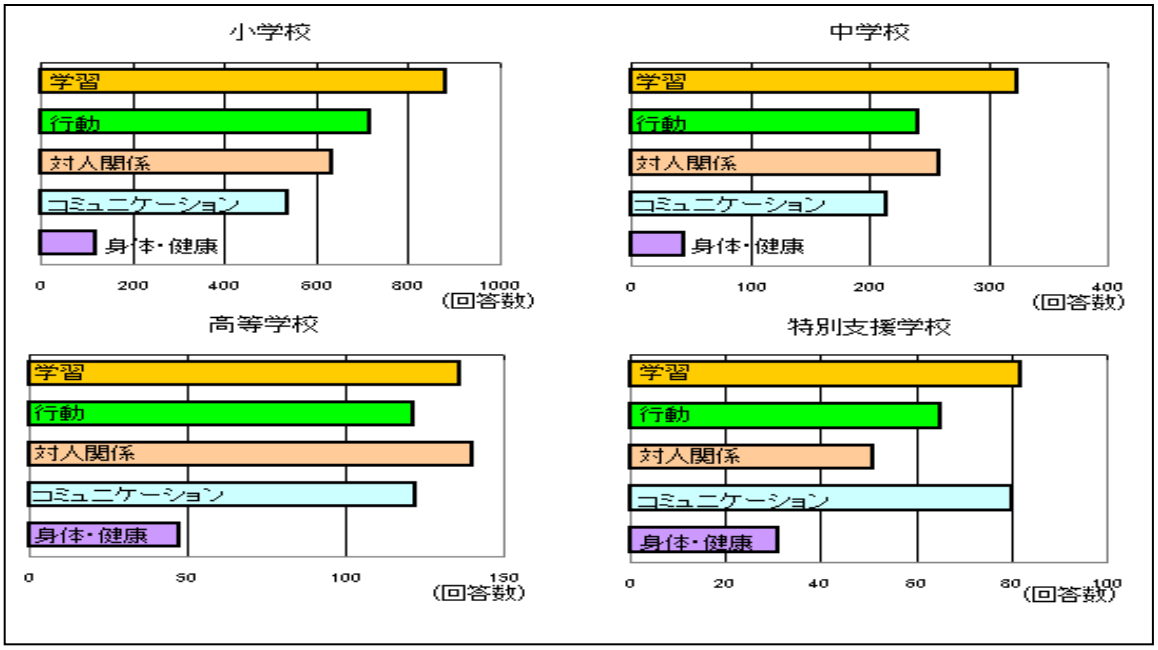


図３　特別な支援や配慮が必要と思われる面

③　支援の配慮の難しさの程度（図 4）

ア　全体的に，支援や配慮の難しさを強く感じている教師は約 30%，難しさを感じているという教師を含めると約 90%近くになっている。どの教師も，苦慮していることがうかがえる。

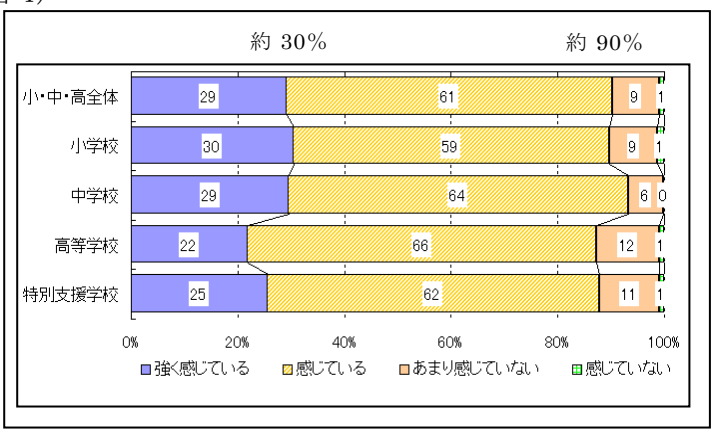


図４　支援の配慮の難しさの程度

④　特別な支援や配慮を考える際の相談先（図 5）

ア　どの学校種においても管理職，上司，同僚に相談するという回答が多く，まず身近な教師に相談し解決を図るケースが多いと考えられる。

イ　特別支援教育コーディネーターの役割が浸透してきており，どの学校種も特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会が活用されている。

ウ　小・中学校では，特別支援学級や通級指導教室の担任に相談するケースも多く，専門性がより求められていることがうかがえる。

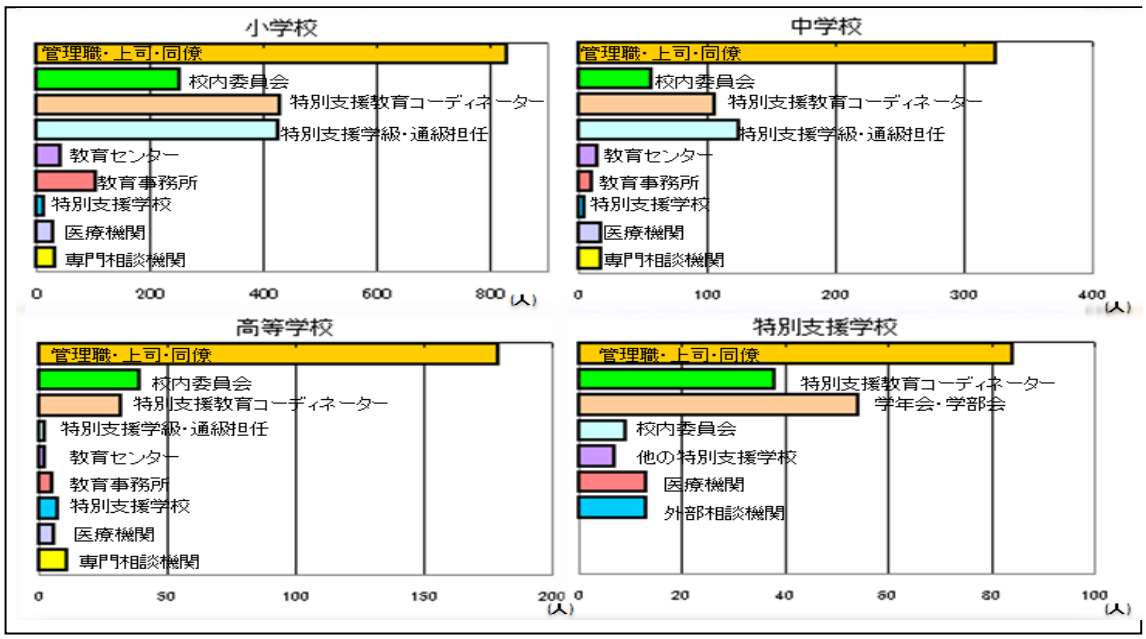


図５　特別な支援や配慮を考える際の相談先

⑤　特別な支援や配慮のある・なしにかかわらず日頃実践している支援（図 6）

ア　読む・聞く・話すことへの困難さへの対応

a「④板書（チョークの色遣い等)」の配慮は，小・中・高等学校にわたって行われている。

b「⑤静かになってから話す」の配慮は，小・中・特別支援学校で行われている。

c「⑥ゆっくりと話す」「⑨言葉を言い換える等答えやすい配慮」の配慮は，小・特別支援学校で既に多く行っており，中・高等学校においても，やってみたい，できそうな支援となっている。

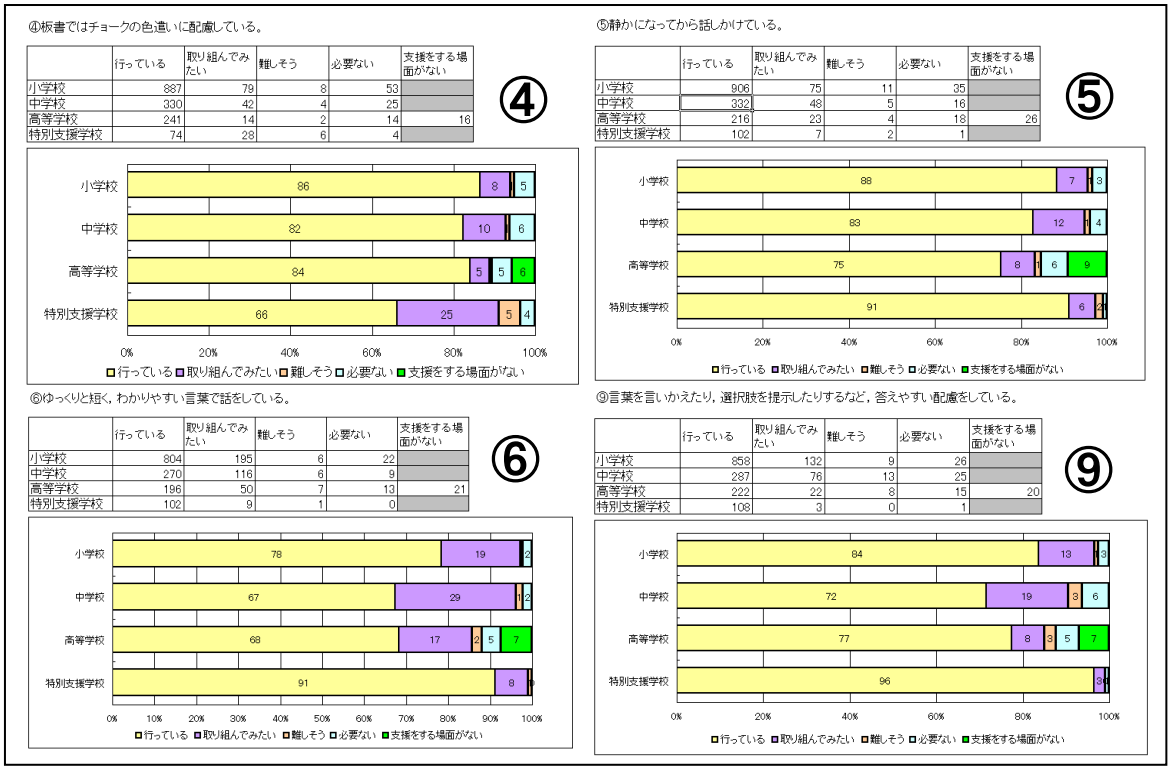


図６　読む・聞く・話すことの困難さへの支援

イ　書くことの困難さへの対応（図 7）

a 「⑫平仮名の解答を認める」は，小・特別支援学校では，やってみたい，できそうな支援となっている。中・高等学校では，教科によっても配慮できるか否かが変わってくるのではないかと思われる。

b 「⑭板書の工夫」は，小・中・高等学校では約 8 割実施されており，各校ともやってみたい，できそうな支援となっている。

c 「⑮プリントの準備」は，特別支援学校では既に多く実施されており，小・中・高等学校でもやってみたい，できそうな支援となっている。

d 「⑯板書を写す際の時間の確保」は，小・中・高等学校において多く実施されている。

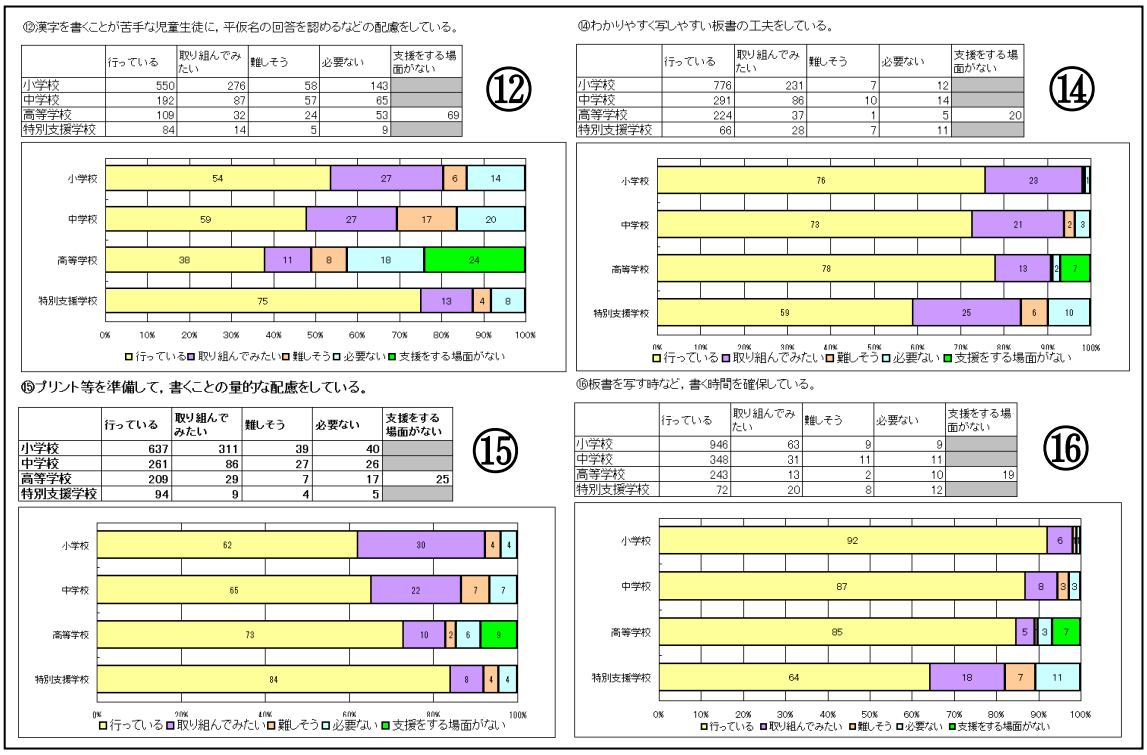


図 7　書くことの困難さへの支援

ウ　計算・推論・思考することの困難さへの対応（図 8）

a 「⑰具体的な図等の視覚的な手立て」は小・特別支援学校では既に多く取り組まれている。中・高等学校では取り組みが約半数だが，取り組みたい支援となっている。

b 「⑳時間の確保」は，各校とも実施いている，やってみたいを合わせると約 9 割となり，取り組めそうな支援となっている。

c 「⑱既習事項の資料」「⑲ヒントカード」の活用は取り組みとしては少ないが，小・中・高等学校でやってみたい，できそうな支援となっている。

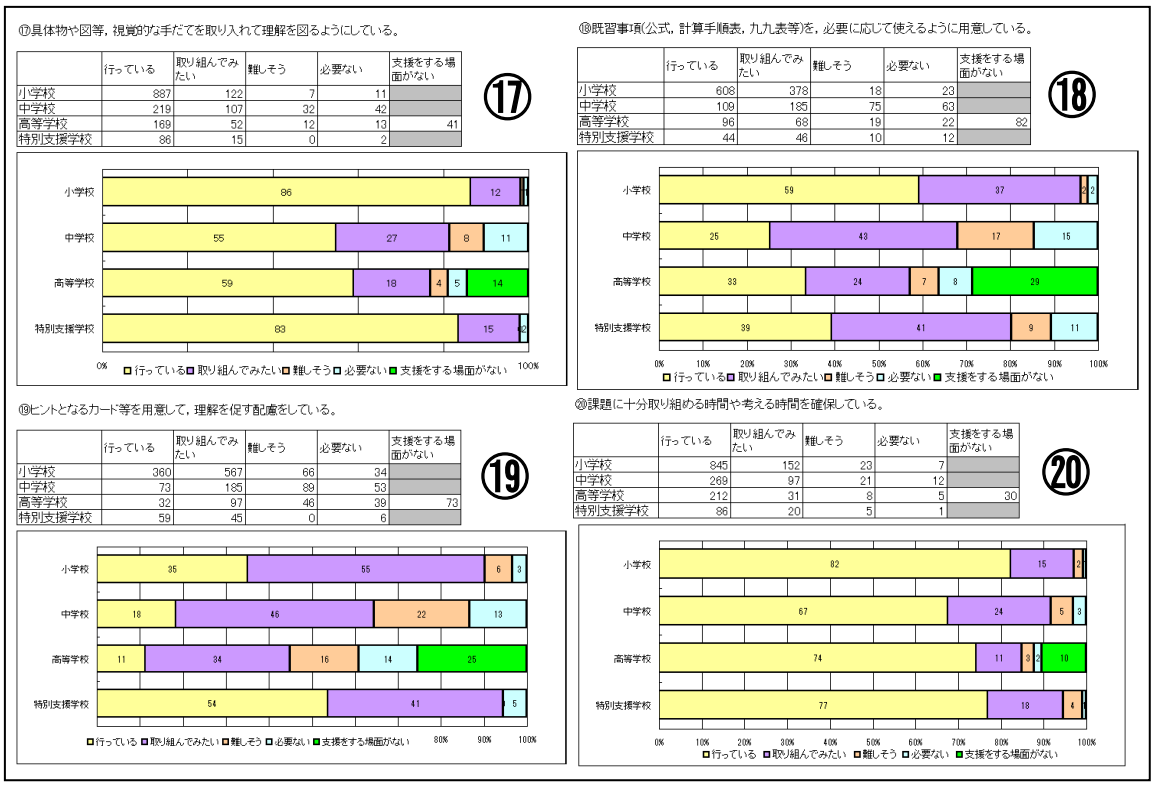


図８　計算・推論・思考することの困難さへの支援

エ　動きの困難さへの対応（図 9）

a　「㉑運動面で一人一人目標設定をする」や「㉒演奏や制作等の苦手な生徒への補助種手段の選択を認める」では，特別支援学校を除くと実施している学校は少ない。小学校では取り組んでみたいという回答が多かったが，中・高等学校では必要性を感じていない回答が多い。発達障害のある生徒には運動面に困難さがある場合もあることや，その場合どのような支援や配慮が必要であるか等について理解を求める必要があると思われる。

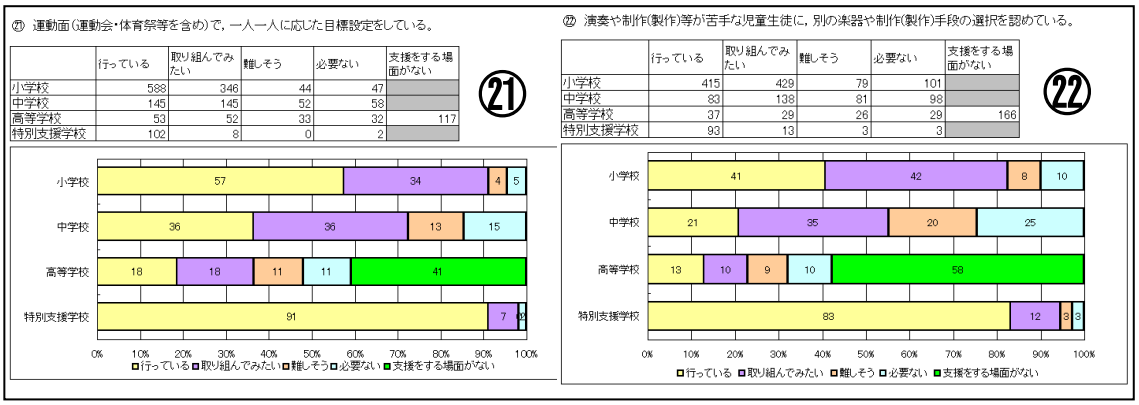


図９　動きの困難さへの支援

オ　注意・多動・衝動性への対応（図 10）

a　小・中・特別支援学校では，既に取り組みが多く，高等学校でもやってみたい，できそうな支援となっているものとして，「㉖係活動等自分の役割を果たす場を用意する」「㉙姿勢を正す言葉かけをする」が挙げられる。

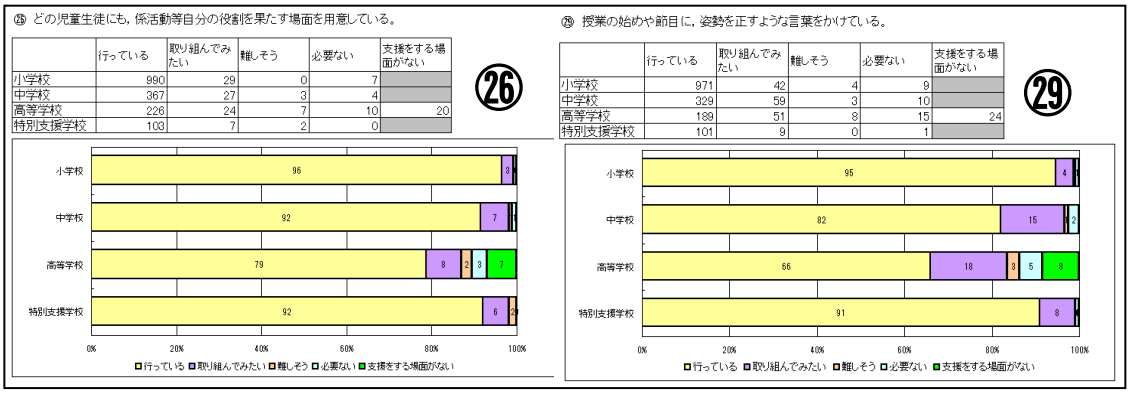


図 10　注意・多動・衝動性への支援

カ　対人関係・コミュニケーションの困難さへの対応（図 11）

a「㉝行事の日程を事前に伝える」支援は，小・中・高・特別支援学校の全てで多く取り組まれている。

b「㊵自尊感情を高めるための取組」は，小・特別支援学校では既に多く取り組まれており，中学校ではやってみたいという回答が多い。高等学校では，必要ない，支援をする場面がないという回答が他学校種に比べて多く，理解を求める必要性を感じる。

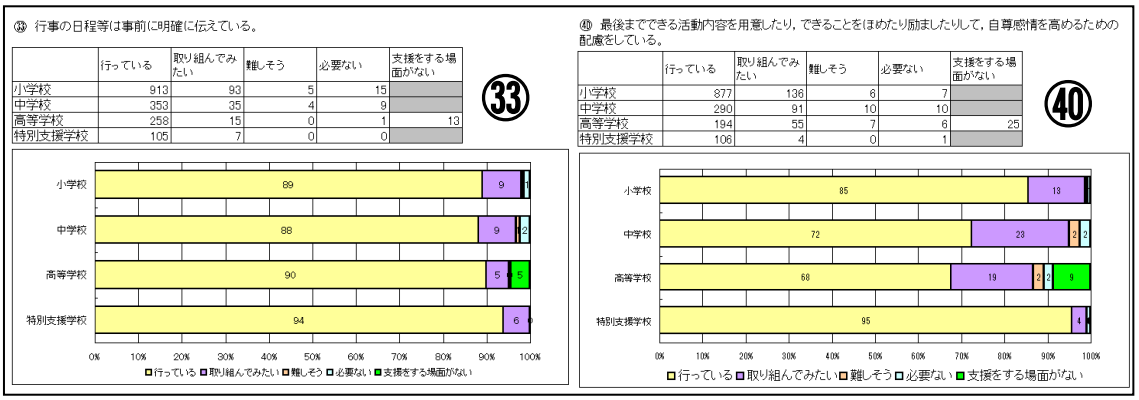


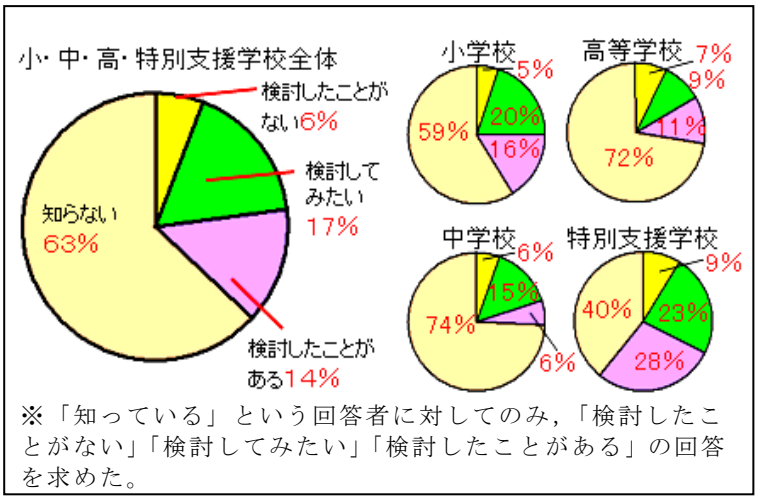
図 11　対人・コミュニケーションの困難さへの支援

⑥　ユニバーサルデザインについての取組（図 12）

「学びのユニバーサルデザイン」あるいは「授業のユニバーサルデザイン」を知っていますかの問いは図 12 のような結果になった。

ア　知っているという回答が小学校では約 40%，中・高等学校では約 30%なのに対し，特別支援学校は約 60%から得られた。

イ　小・中・高・特別支援学校全体では，既に 14%の教師がユニバーサルデザインの取り組みについて検討しているとの回答が得られた。てみたいという 17%を合わせると，約 30%の教師がユ



※「知っている」という回答者に対してのみ，「検討したことがない」「検討してみたい」「検討したことがある」の回答を求めた。

図 12　ユニバーサルデザインの取組

ニバーサルデザインの視点をもって支援することに対して前向きな意識があるということが言える。

(2)　研究協力員会議での情報交換

各学校種の実態の違いや，各学校内でも教職員に学校生活のユニバーサルデザインに対しての取り組みや意識に差があることがわかった。

どの学校種でも共通して出てきたのは，教師の年齢層は二極化が進んでいる。若い世代の教師に伝えるに当たっては丁寧に伝えていかなければいけないが，それだけの余裕が学校にないと思われる。また，年配の教師の中には，技術は伝えてもらうものではなく学び取るものとして考えている人も多い。従来実践されてきた指導法や支援・配慮の中には専門性が高く，次世代につないでいかなくてはならない大事なものが多くあるという意見が出された。

質問紙調査項目のうち，支援の実施の有無等の回答の，「やれている（行っている）」という判断は，明らかな基準によるものではないため，今後支援を実施するに当たっては，「どこまでできれば良いか」「どこから取りかかれば良いか」という基準から状況を把握する必要がある。

実施の「難しい」支援や配慮の中には，物の準備が必要な支援や配慮が多い。実践に当たって，学校全体の組織的な取組，教師が共通理解して取り組むことが必要である。これについては，管理職のリーダーシップが必須になり，支援体制のための組織づくりや中心になって取り組む教師への支援等も必要であろう。また，平仮名の解答や公式が記載されているカードの利用に当たっては試験や成績の評価から検討する必要があるため，学校としてどうするかを考えていかなくてはならない。

4　考察

(1)　今年度のまとめ

質問紙調査の結果から，以下のような現状を把握することができた。

①　小・中・高等学校の通常学級では，障害のあるなしにかかわらず，特別な支援が必要であると教師が感じる児童生徒が在籍し，担当教師は日々の実践に苦慮している現状が明らかになった。

②　40 項目の支援の多くについては，小学校・特別支援学校においてユニバーサルデザインの視点での支援が行われているとみられる。中学校・高等学校においては，学級内に支援が必要であると感じながら実際には実践に至らず戸惑っているという現状も察することができ，教科担任制になることも要因の一つに挙げられるのではないか。しかし，実践していないがやってみたいという回答も多く，学級内だけでなく学年や学校全体で取り組む必要性を感じた。それには管理職を含めて教職員の共通理解が必要であり，校内の体制づくりが求められることがわかった。

③　自由記述ではコミュニケーション不足から子ども同士のトラブルにつながる等の記述が多く，学級経営面として生徒指導上の面からも苦慮していることがうかがえる。また，係活動などの役割を持たせたり褒めて自尊感情を高めたりという支援を行っているという回答は多いが，ロールプレイや事前にカードを用意して自分の気持ちを伝えられるよう配慮する等の回答は少ない。準備が必要な支援には取り組みにくいことがわかった。子ども同士がお互いに認め合い，助け合う思いやりのある人間関係づくりや仲間づくりをするための学級経営のための支援の方法について検討する必要があ

ることがわかった。

④　教師が実際に困難を抱えた児童生徒を目の前にし，特別な支援が必要と感じながらも，文字カードや具体物等の事前の準備が必要な支援には日々の忙しさからか実践できていない現状もうかがえる。児童生徒にじっくりと向き合い，それぞれの特性に応じた教育的支援を行うためには，具体例に富み現場でいつでもすぐに活用できるような支援ツールが求められていることがわかった。

(2)　研究２年次に向けて

研究２年次では，研究協力校において実践研究を行い学校生活のユニバーサルデザインの有効性を検証し，研究３年次に作成するガイドブックの資料にするとともに研究協力員の実践等県内の事例を収集していきたい。

来年度，研究協力校での実践研究は以下のとおりである。

①　実際の指導・支援場面での実践内容の指標として支援シートを作成し，それを学級経営や授業計画に組み入れる。

②　授業研究等から支援や配慮の有効性等を検討する。

③　校内教師の意見等から，学校生活のユニバーサルデザインを実践するための校内体制の在り方を検討する。

主な参考文献，引用文献

１　主な参考文献

・文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」平成24年12月5日

・Center for Applied Special Technology（CAST）「学びのユニバーサルデザイン・ガイドライン（Ver2）」2012

・千葉県総合教育センター特別支援教育部「LD児等行動兆候チェックリスト」平成21年度

・千葉県総合教育センター特別支援教育部「行動の気になる生徒のチェックリスト」平成23年度

研究協力員一覧

（講　　師）	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所				
	発達障害教育情報センター　総括研究員　梅田　真理				
（研究協力校）	香取市立福田小学校	校長	青柳　晃	教諭	萩原　一彦
	我孫子市立白山中学校	校長	丸　智彦	教諭	太田　悦子
	県立天羽高等学校	校長	穐山　三喜雄	教諭	髙木　正人
	県立東金特別支援学校	校長	薄井　久雄	教諭	金坂　京子
（研究協力員）	特別支援教育課		指導主事　上部　誠志		
	葛南教育事務所		指導主事　井上　みどり		
	南房総教育事務所		指導主事　大野　由紀子		
	睦沢町立土睦小学校		教諭　鵜澤　紀子		
	市川市立東国分中学校		教諭　荒井　克典		
	県立流山おおたかの森高等学校		養護教諭　唐橋　京子		
	県立槇の実特別支援学校		教諭　佐々木　郁子		

資料１

平成２４年９月

平成２４年度調査研究事業　「どの子も『わかる』『できる』授業づくり・学級経営の充実をめざして」～学校生活のユニバーサルデザインの視点をふまえて～に関するアンケート調査について

千葉県総合教育センター特別支援教育部

千葉県総合教育センター特別支援教育部では，「学校生活のユニバーサルデザイン」の視点をふまえ，県内の小学校，中学校，高等学校，特別支援学校において，誰もがわかりやすく，またわかったと実感できる授業づくりや，誰でも参加できる学級づくりなどの方法を探っております。

「学校生活のユニバーサルデザイン」とは，どの子も『わかる』『できる』と実感できるような授業づくりにおける学習環境と，どの子も学級内に居場所を見つけることができるような学級づくりにおける教室環境の両者を整えるための，「いつでも」「どこでも」「誰にでも」活用できるとともに，有効な支援となるような様々な工夫や配慮と捉えています。この視点をふまえて授業づくりや学級経営の充実を図ることが，障害の有無にかかわらず，『わかる』『できる』授業づくりや学級経営上に有効な支援となると考えます。

本アンケート調査では，県内の先生方に，通常学級の担任の立場から，授業づくりや学級経営の観点で，特別な支援や配慮を行うため，日ごろから御尽力，工夫されている取組みなどをお尋ねします。率直なお考えをお聞かせいただければ幸いです。

なお，アンケートは本研究で使用するとともに，当センターの研修事業などにも活用させていただきたいと考えております。

お手数をおかけしますが，御協力くださるようお願いいたします。

【回答する際の留意事項】

本アンケートの回答は，通常学級の担任をされている先生方にお願いします。

また，本アンケートでは，「特別な支援や配慮を必要とする児童生徒」を次のように捉えております。

（１）学習面で特別な支援や配慮を必要としている
○文字の読み・書きにつまずきがある　○計算につまずきがある
○運動や体の動きにぎこちなさがある　○やる気が感じられない・・・等々

（２）行動面で特別な支援や配慮を必要としている
○落ち着きがない　○注意を集中することが苦手　○待つことが苦手
○集団行動が苦手　○特定の物や事柄にこだわる　・・・等々

（３）対人関係面で特別な支援や配慮を必要としている
○友だちができにくい　○友だちと関わりを持ちたがらない
○友だちとトラブルが多い　○友だちの気持ちを理解することが苦手・・・等々

（４）コミュニケーション面で特別な支援や配慮を必要としている
○自分の関心事を一方的に話すことがある　○難しい言葉遣いが目立つ
○冗談や慣用表現の理解が苦手　○場面に応じた言葉遣いが苦手・・・等々

（５）身体面・健康面で特別な支援や配慮を必要としている
○視覚・聴覚・肢体不自由・病弱などの面で特別な支援や配慮が必要

上記に該当する，またはこれ以外でも，担任として特別な支援や配慮を必要と感じている児童生徒です。

平成２４年度　千葉県総合教育センター特別支援教育部
調査研究事業　アンケート調査

※別紙の回答用紙に御記入の上、回答用紙のみ御返送ください。

1　学校種　　a　小学校　b　中学校　c　高等学校（全日制）
d　高等学校（定時制）

2　担当学年　　a　１年　b　２年　c　３年
d　４年　e　５年　f　６年

3　学級の在籍人数　a　１０人未満
b　１０人～２０人未満
c　２０人～３０人未満
d　３０人以上

4　教員経験年数　a　５年未満
b　５年～１０年未満
c　１０年～２０年未満
d　２０年以上

5　学習面や行動面で特別な支援や配慮が必要と思われる児童生徒は，学級に何人いますか。
a　いない　b　１人　c　２人～３人
d　４人～６人　e　７人～１０人　f　１１人以上

（※　a を選んだ方は質問 10 へお進みください。）

6　そのような児童生徒には，主にどのような面において特別な支援や配慮が必要と思われますか。（複数回答可）
a　学習　b　行動　c　対人関係
d　コミュニケーション　e　身体・健康

7　その児童生徒への特別な支援や配慮を考える際に，難しさを感じていますか。
a　強く感じている　b　感じている
c　あまり感じていない　d　感じていない

8　特別な支援や配慮を考える際に，誰かに相談したりアドバイスを得たりしていますか。
a　している　b　していない

（※　b を選んだ方は質問 10 へお進みください。）

9　その場合の相談先や，アドバイスを受けるところはどこですか。（複数回答可）
a　管理職・上司・同僚　b　校内委員会
c　特別支援教育コーディネーター
d　特別支援学級・通級指導教室の担任
e　教育センター　f　教育事務所（特別支援アドバイザー）
g　特別支援学校　h　医療機関　i　専門の相談機関など

１０　特別な支援や配慮が必要な児童生徒の「いる・いない」にかかわらず，あなたは以下の支援を行っていますか。

ａ　：行っている。
ｂ　：行っていないが，取り組んでみたい（取り組むことができそう）。
ｃ　：行っていない。今後も，取り組むことが難しそう。
ｄ　：行っていない。そのような支援は必要ない。

Ⅰ　読む・聞く・話すことの困難さへの対応	
No.	質　問　内　容
①	文字に，絵や写真，具体物等を添えて，理解の補助をしている。
②	漢字にふりがなをふるなどの支援をしている。
③	文字に，指や定規をあてるなどして，読みやすくなる方法を提示している。
④	板書ではチョークの色遣いに配慮している。
⑤	静かになってから話しかけている。
⑥	ゆっくりと短く，わかりやすい言葉で話をしている。
⑦	写真やカードなどの視覚的な手だてを併せて，話をしている。
⑧	話の組み立てを考えやすくするため，児童生徒が活用できる要点や順序等を書いたカードを準備するなどの工夫をしている。
⑨	言葉を言いかえたり，選択肢を提示したりするなど，答えやすい配慮をしている。
⑩	「声の大きさ表」等を活用して，適切な声の大きさで話ができるようにしている。
⑪	意見を聞く際に，考えをまとめる時間を確保している。

Ⅱ　書くことの困難さへの対応	
No.	質　問　内　容
⑫	漢字を書くことが苦手な児童生徒に，平仮名の回答を認めるなどの配慮をしている。
⑬	作文等文章を書くときに，考えやすい手だて（写真・校外学習のしおり等）を準備して使えるようにしている。
⑭	わかりやすく写しやすい板書の工夫をしている。
⑮	プリント等を準備して，書くことの量的な配慮をしている。
⑯	板書を写す時など，書く時間を確保している。

Ⅲ　計算・推論，思考することの困難さへの対応	
No.	質　問　内　容
⑰	具体物や図等，視覚的な手だてを取り入れて理解を図るようにしている。
⑱	既習事項(公式，計算手順表，九九表等)を，必要に応じて使えるように用意している。
⑲	ヒントとなるカード等を用意して，理解を促す配慮をしている。
⑳	課題に十分取り組める時間や考える時間を確保している。

Ⅳ　動き（粗大・微細）の困難さへの対応	
No.	質　問　内　容
㉑	運動面（運動会・体育祭等を含め）で，一人一人に応じた目標設定をしている。
㉒	演奏や制作(製作)等が苦手な児童生徒に，別の楽器や制作(製作)手段の選択を認めている。

Ⅴ　注意・多動・衝動性への対応	
No.	質　問　内　容
㉓	ロッカーの整理がしやすいように，ラベル等で視覚化して示している。
㉔	学級の中で授業準備のルールを決めている。
㉕	黒板やその周囲の掲示物は，整理して統一感を持たせている。
㉖	どの児童生徒にも，係活動等自分の役割を果たす場面を用意している。
㉗	取り組む時間を事前に示す配慮をしている。
㉘	予定表を提示したり変更点を分かりやすく提示したりしている。
㉙	授業の始めや節目に，姿勢を正すような言葉をかけている。
㉚	「○回やったら交代する」「○時○分になったらできる」などのルールを仲間同士でつくることを進めている。
㉛	話は最後まで聞くよう，ルールを決めている。

Ⅵ　対人関係・コミュニケーションの困難さへの対応	
No.	質　問　内　容
㉜	表情カードを活用したり，言われると「いい気持ちになる言葉」や「嫌な気持ちになる言葉」を具体的に伝えたりしている。
㉝	行事の日程等は事前に明確に伝えている。
㉞	「○○になったら□□に変更します」などと，切り替えを促す配慮をしている。
㉟	「○時○分まで頑張ろう」と目標を設けるなどして，集中できるようにしている。
㊱	グループ活動等では，一人一人の役割がはっきりわかるように提示している。
㊲	ロールプレイ等を用いて人とのかかわり方について学ぶ機会を設けている。
㊳	気持ちを表す表情や文字のカード等を用意して，自分の気持ちを伝えられるような配慮をしている。
㊴	仲間同士でコミュニケーションをとるきっかけとなるような活動を行っている。
㊵	最後までできる活動内容を用意したり，できることをほめたり励ましたりして，自尊感情を高めるための配慮をしている。

１１　「学びのユニバーサルデザイン」や「授業のユニバーサルデザイン」について知っていますか。

a　知っている　　b　知らない

１２　質問１１でａを選んだ方にお聞きします。
「学びのユニバーサルデザイン」や「授業のユニバーサルデザイン」の発想を採り入れて，特別な支援や配慮を考えたり検討したりしたことがありますか。

a　ある　　b　ない　　c　してみたい

１３　質問１０の①～㊵以外に実施されていることなどがありましたら，自由に御記入ください。

御協力いただきありがとうございました。

＜回答用紙の記入例＞

平成24年度　千葉県総合教育センター　特別支援教育部　調査研究事業　（小中学校用）
「どの子も『わかる』『できる』授業づくり・学級経営の充実をめざして」
～学校生活のユニバーサルデザインの視点をふまえて～ に関するアンケート調査　回答用紙

学校名	海山市　立　海山東小　学校

各質問の回答に該当する記号を○で囲んでください

質問						
1	(a)	b	c	d		
2	(a)	b	c	d	e	f
3	a	(b)	c	d		
4	a	b	(c)	d		
5	a	(b)	c	d	e	f
6	a	b	(c)	d	(e)	
7	a	b	(c)	d		
8	a	(b)				
9	a	b	(c)	d	e	f (g) h i

質問 10

Ⅰ	読む・聞く・話すことの難しさへの対応				Ⅲ	計算・推論，思考することの困難さへの対応		
①	(a)	b	c	d	⑰	a	(b)	c	d
②	a	(b)	c	d	⑱	(a)	b	c	d
⑯	a	b	(c)	d	㉛	a	(b)	c	d

Ⅵ	対人関係・コミュニケーションの困難さへの対応							
㉜	(a)	b	c	d				
㉝	a	b	(c)	d				

質問13

「声の大きさ表」を掲示してみんなで声の大きさのルールを決めています。

子どもによっては，九九の表を机に貼ってヒントにしています。

御協力ありがとうございました。
なお御記入いただきました回答用紙は，校内担当者様に提出していただきますようお願いします。

資料2

平成24年度調査研究事業

「どの子も『わかる』『できる』授業づくり・学級経営の充実をめざして」

～学校生活のユニバーサルデザインの視点をふまえて～

に関する質問紙調査結果

調査対象

小学校	173　　校	1033 人
中学校	135　　校	405 人
高等学校	86　(93) 校	287 人
特別支援学校	28　　校	112 人
合計	422　(429) 校	1837 人

※(　)は定時制も別に数えた校数

※無回答の項目がある場合や複数回答による場合により，データの表中の合計数と上記の調査対象教員の総数が異なることがあります。

※百分率の表示は全体数に対しての各項目の数の割合を計算し小数点第2位で四捨五入しています。合計が100.0%にならない場合もあります。

千葉県総合教育センター　特別支援教育部

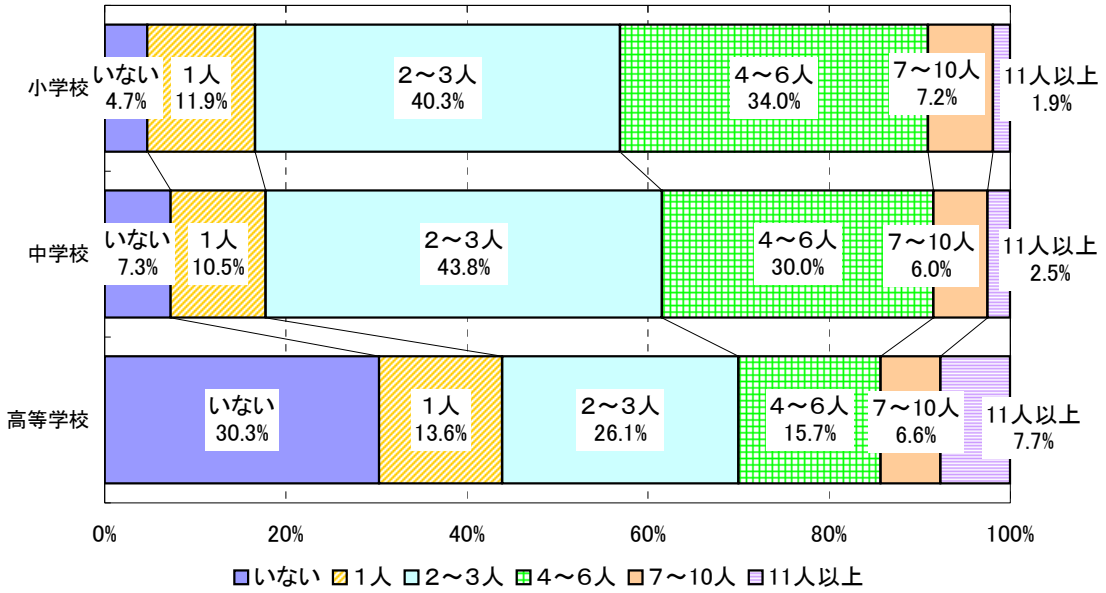
（1） 学級内の特別な支援や配慮が必要な児童生徒数（小・中・高等学校の教員に質問）

数値：上段は単数回答による回答数　下段は回答数の合計に対しての割合

	いない	1人	2～3人	4～6人	7～10人	11人以上	合計
小学校	48 4.7%	122 11.9%	414 40.3%	349 34.0%	74 7.2%	20 1.9%	1027 100.0%
中学校	29 7.3%	42 10.5%	175 43.8%	120 30.0%	24 6.0%	10 2.5%	400 100.1%
高等学校	87 30.3%	39 13.6%	75 26.1%	45 15.7%	19 6.6%	22 7.7%	287 100.0%
小・中・高等学校全体	164 9.6%	203 11.8%	664 38.7%	514 30.0%	117 6.8%	52 3.0%	1714 99.9%

学級内の特別な支援や配慮が必要な児童生徒数（割合）

数値：全体に対しての割合（上の表を参照）



学級等で個別に対応した特別な支援や配慮が，他の児童生徒に対しても有効であった，あるいは有効ではないかと感じたことはありますか。（特別支援学校の教員のみに質問）

数値：上段は単数回答による回答数　下段は回答数の合計に対しての割合

	感じたことがある	感じたことはない	合計
特別支援学校	111 99.1%	1 0.9%	112 100.0%

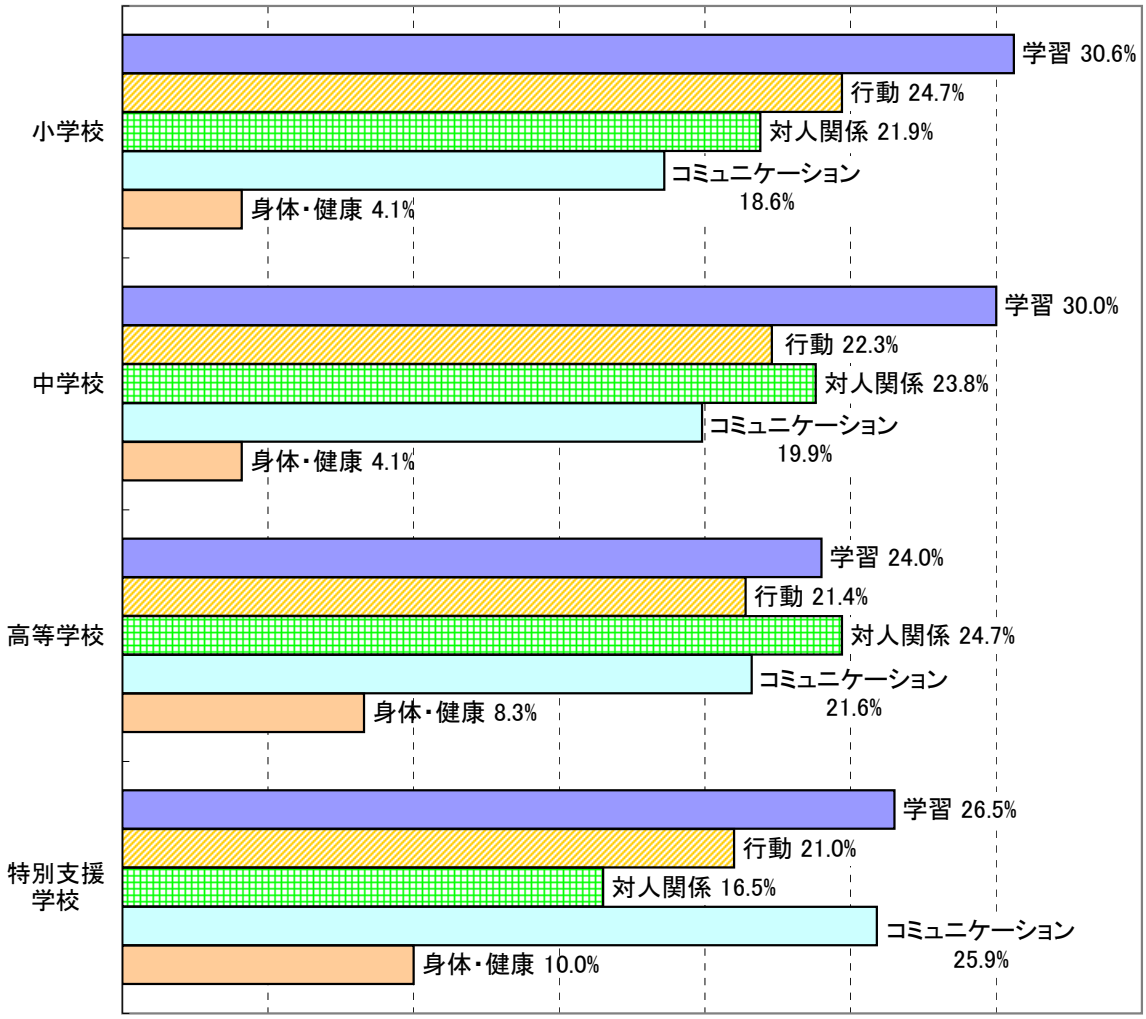
（2）（1）の児童生徒に対して必要となる支援や配慮

数値：上段複数回答による回答数　下段複数回答の合計に対しての割合

	学習	行動	対人関係	コミュニケーション	身体・健康	合計
小学校	882 30.6%	714 24.7%	633 21.9%	538 18.6%	118 4.1%	2885 99.9%
中学校	325 30.0%	241 22.3%	258 23.8%	215 19.9%	44 4.1%	1083 100.1%
高等学校	136 24.0%	121 21.4%	140 24.7%	122 21.6%	47 8.3%	566 100.0%
特別支援学校	82 26.5%	65 21.0%	51 16.5%	80 25.9%	31 10.0%	309 99.9%

必要な支援や配慮

数値：複数回答の合計に対しての割合（上の表を参照）



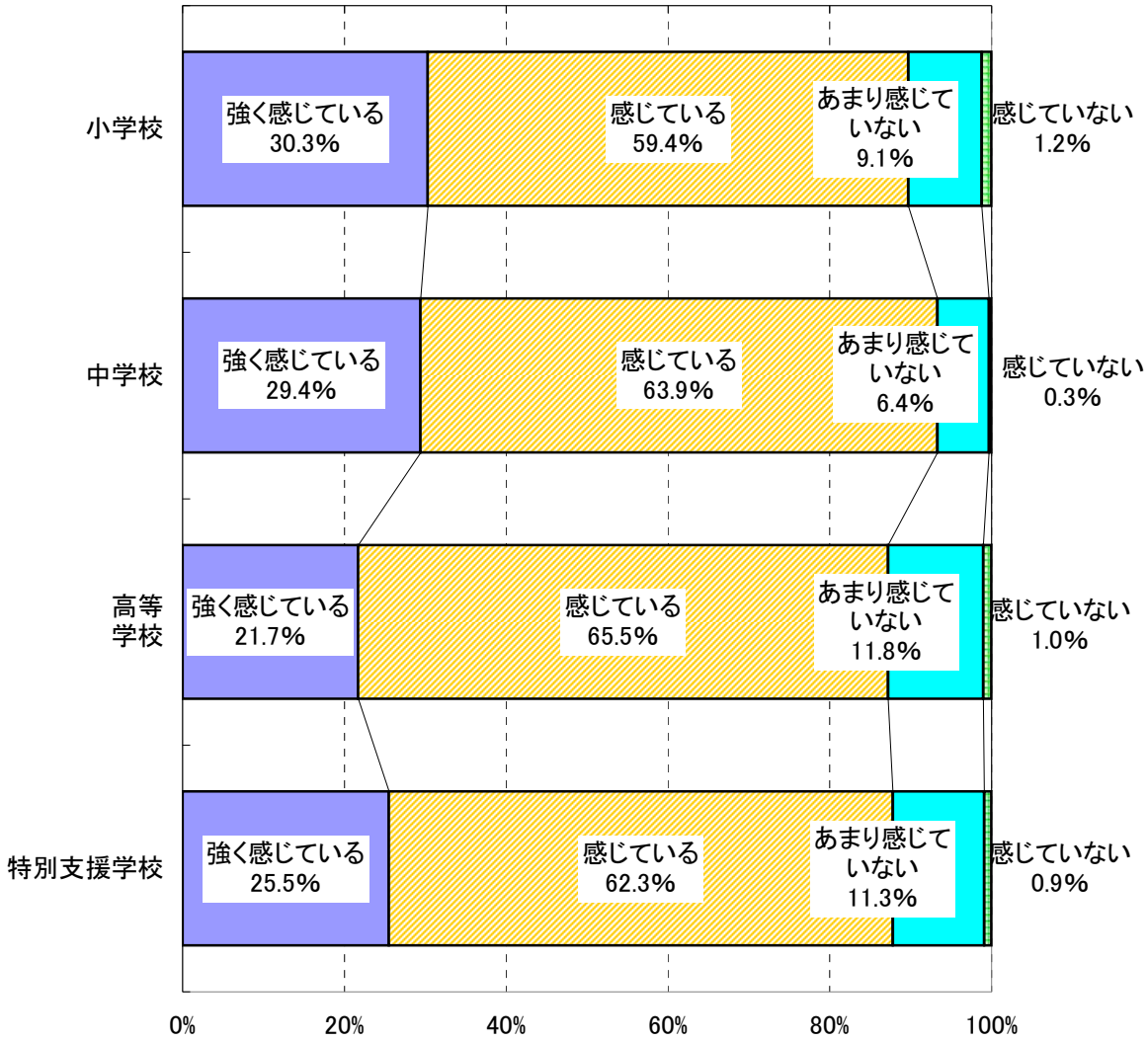
（3） 特別な支援や配慮についての難しさ

数値：上段は単数回答による回答数，下段は回答数の合計に対しての割合

	強く感じている	感じている	あまり感じていない	感じていない	合計
小学校	298 30.3%	585 59.4%	90 9.1%	12 1.2%	985 100.0%
中学校	110 29.4%	239 63.9%	24 6.4%	1 0.3%	374 100.0%
高等学校	44 21.7%	133 65.5%	24 11.8%	2 1.0%	203 100.0%
特別支援学校	27 25.5%	66 62.3%	12 11.3%	1 0.9%	106 100.0%

特別な支援や配慮についての難しさ（割合）

数値：全体に対しての割合（上の表を参照）

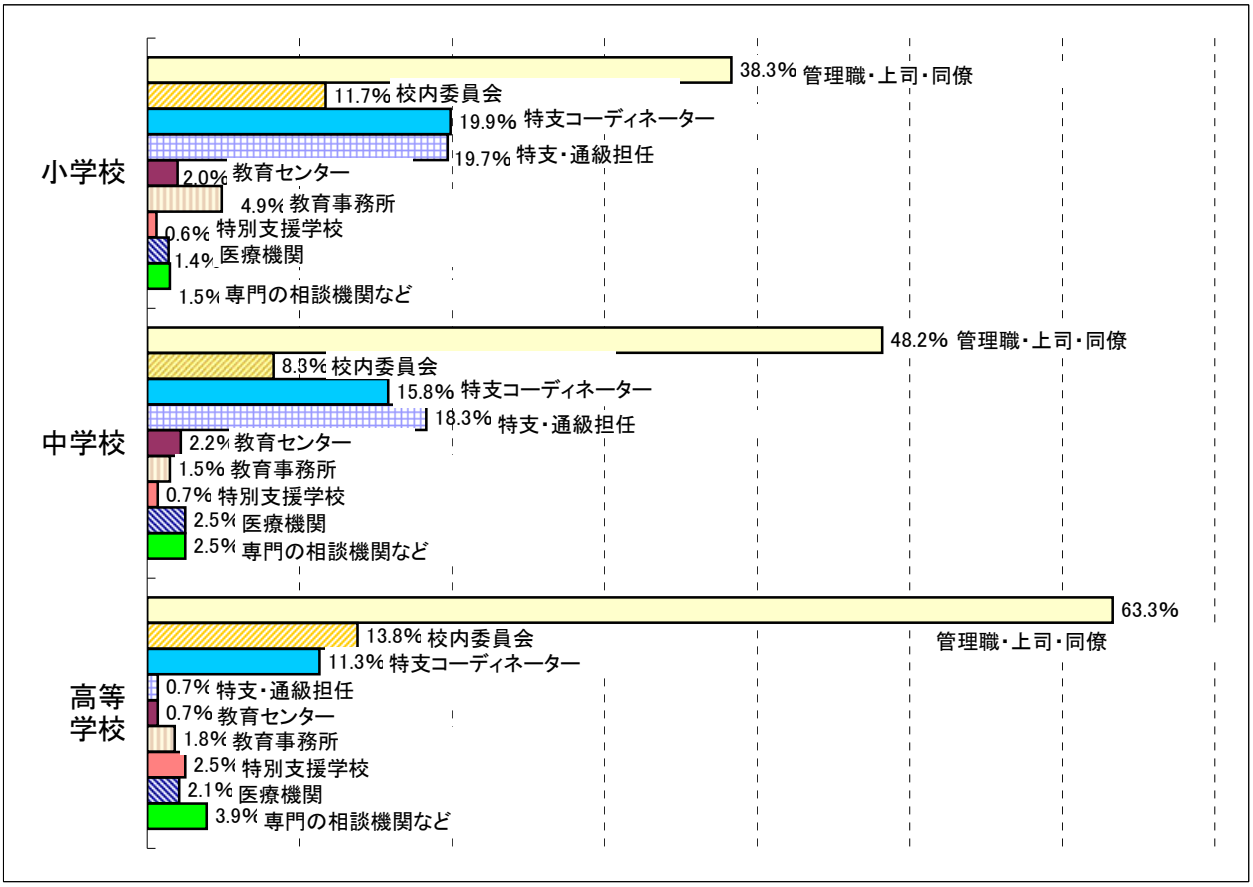


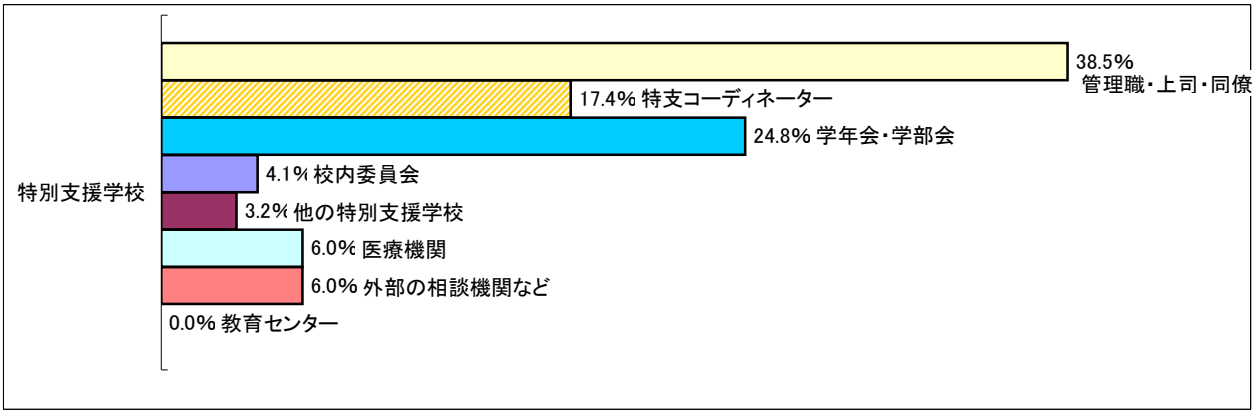
（4） 必要な支援や配慮の相談先

数値：上段複数回答による回答数　下段複数回答の合計に対しての割合

	管理職・上司・同僚	校内委員会	特支コーディネーター	特支・通級担任	教育センター	教育事務所(特支アドバイザー)	特別支援学校	医療機関	専門の相談機関など	合計
小学校	827 38.3%	253 11.7%	430 19.9%	425 19.7%	43 2.0%	105 4.9%	13 0.6%	30 1.4%	32 1.5%	2158 100.0%
中学校	326 48.2%	56 8.3%	107 15.8%	124 18.3%	15 2.2%	10 1.5%	5 0.7%	17 2.5%	17 2.5%	677 100.0%
高等学校	179 63.3%	39 13.8%	32 11.3%	2 0.7%	2 0.7%	5 1.8%	7 2.5%	6 2.1%	11 3.9%	283 100.1%
(特別支援学校)	管理職・上司・同僚	特支コーディネーター	学年会・学部会	校内委員会	他の特別支援学校	医療機関	外部の相談機関など	教育センター		合計
特別支援学校	84 38.5%	38 17.4%	54 24.8%	9 4.1%	7 3.2%	13 6.0%	13 6.0%	0 0.0%		218 100.0%

必要な支援や配慮の相談先（割合） 数値：複数回答の合計に対しての割合（上の表を参照）



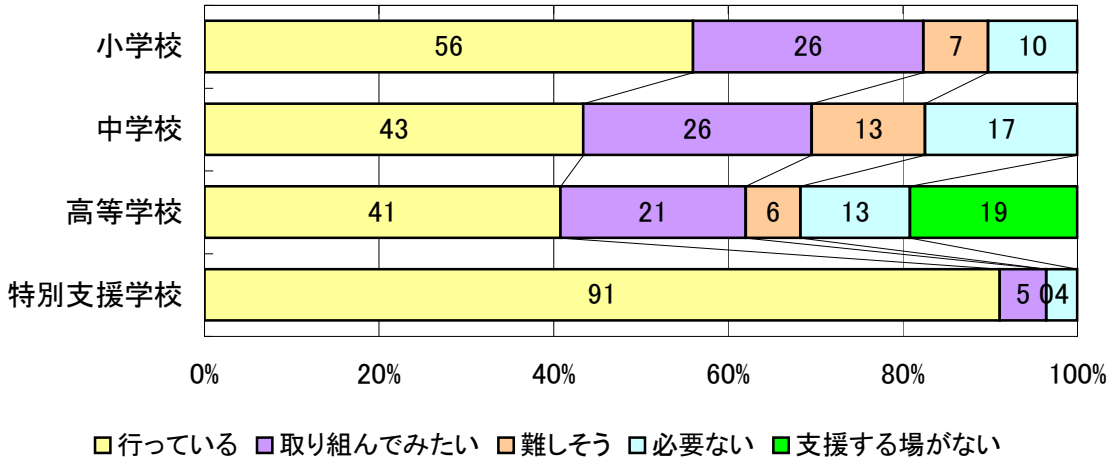


（5） 実施している支援の内容

①文字に，絵や写真，具体物等を添えて，理解の補助をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	574	271	76	105	
中学校	174	105	52	70	
高等学校	117	61	18	36	55
特別支援学校	102	6	0	4	

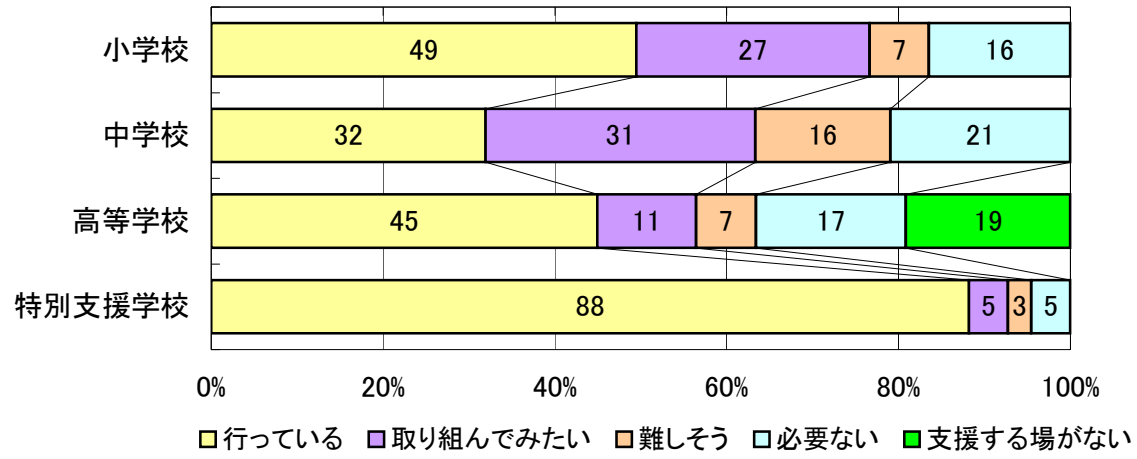
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



②漢字にふりがなをふるなどの支援をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	508	279	71	169	
中学校	128	126	63	84	
高等学校	129	33	20	50	55
特別支援学校	97	5	3	5	

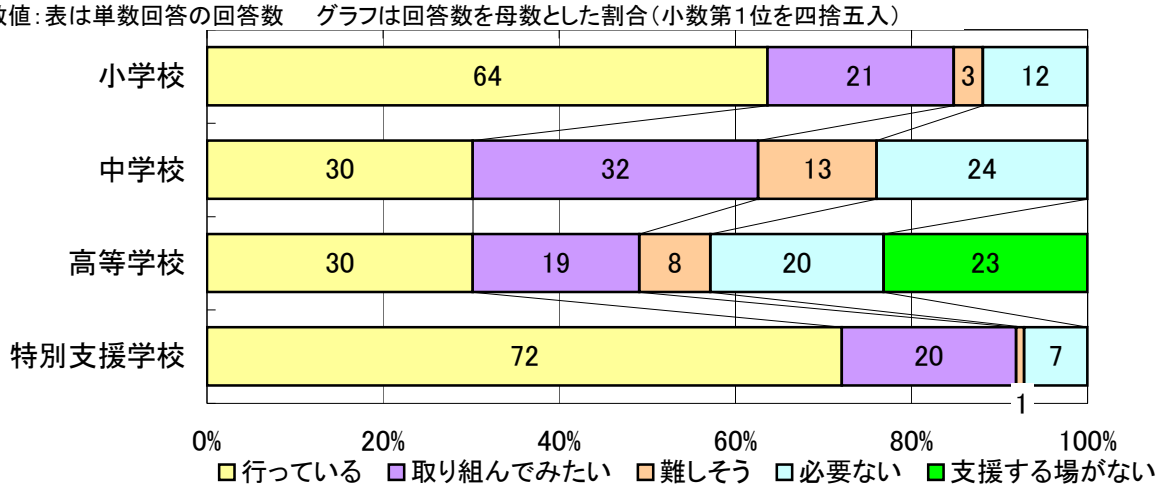
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



③文字に，指や定規をあてるなどして，読みやすくなる方法を提示している。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	653	217	34	122	
中学校	121	130	54	96	
高等学校	86	54	23	56	66
特別支援学校	80	22	1	8	

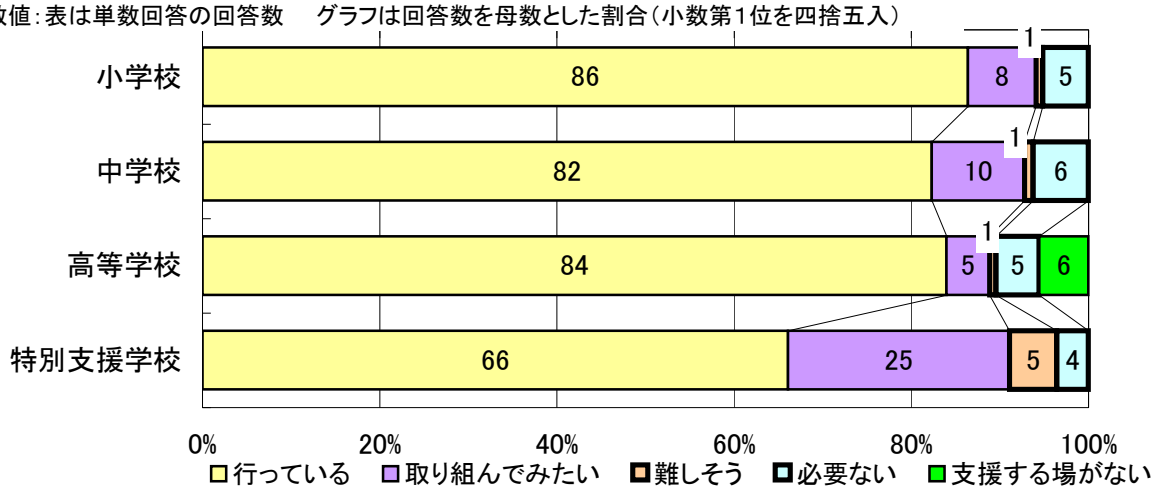
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



④板書ではチョークの色遣いに配慮している。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	887	79	8	53	
中学校	330	42	4	25	
高等学校	241	14	2	14	16
特別支援学校	74	28	6	4	

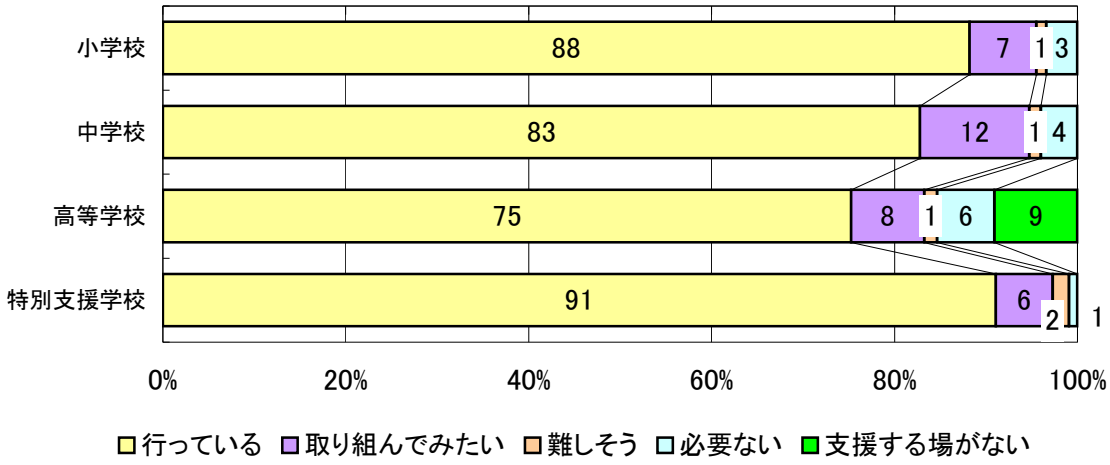
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑤静かになってから話しかけている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	906	75	11	35	
中学校	332	48	5	16	
高等学校	216	23	4	18	26
特別支援学校	102	7	2	1	

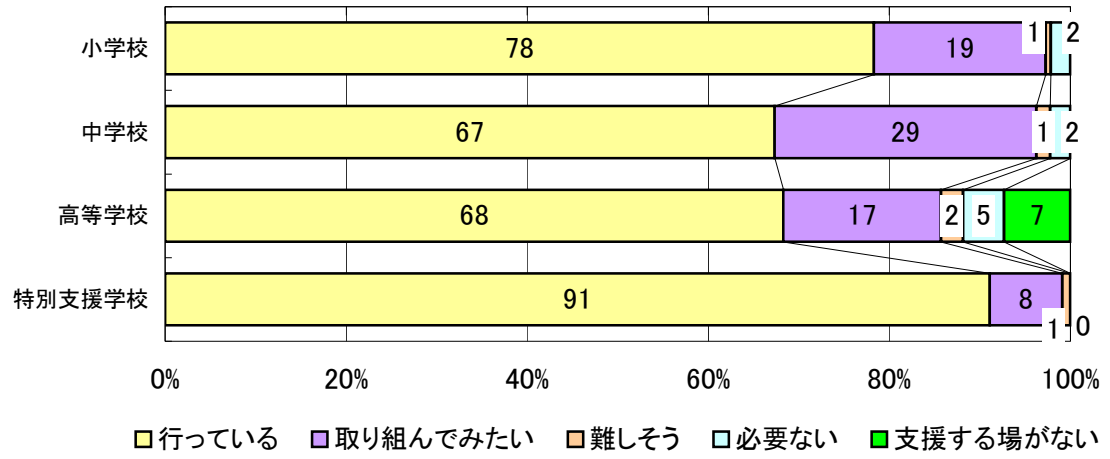
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑥ゆっくりと短く，わかりやすい言葉で話をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	804	195	6	22	
中学校	270	116	6	9	
高等学校	196	50	7	13	21
特別支援学校	102	9	1	0	

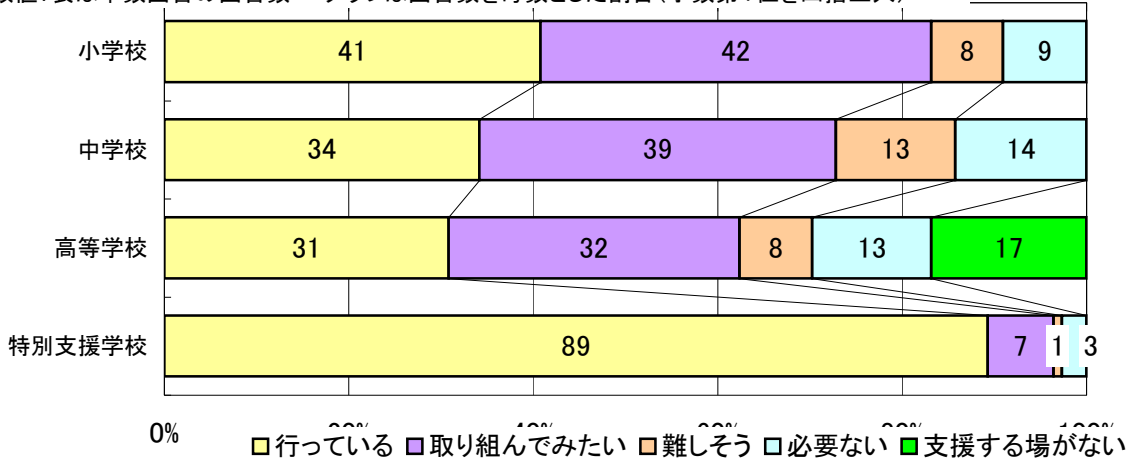
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑦写真やカードなどの視覚的な手だてを併せて，話をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	419	435	80	93	
中学校	137	155	52	57	
高等学校	86	88	22	36	47
特別支援学校	100	8	1	3	

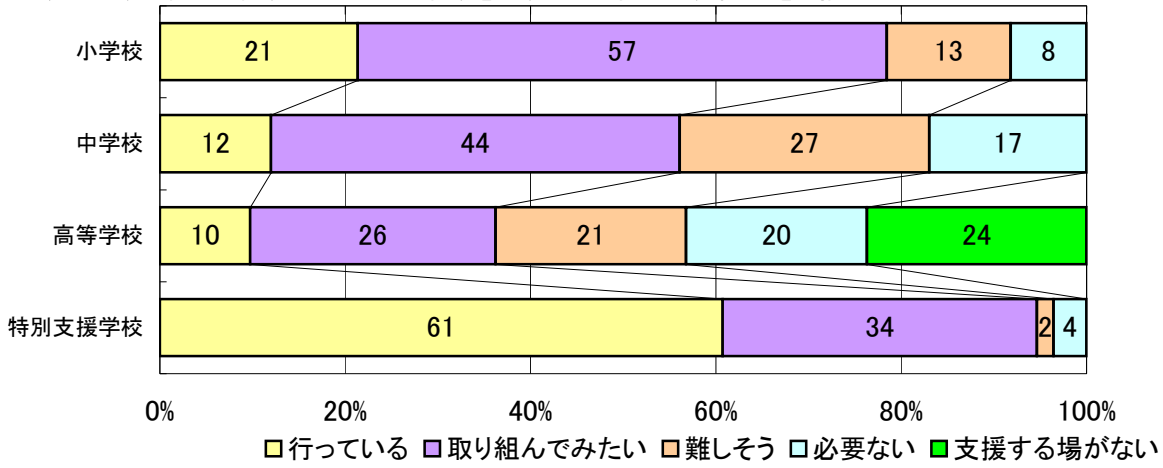
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第１位を四捨五入）



⑧話の組み立てを考えやすくするため，児童生徒が活用できる要点や順序を書いたカードを準備するなどの工夫をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	219	586	137	84	
中学校	48	177	108	68	
高等学校	28	76	59	56	68
特別支援学校	68	38	2	4	

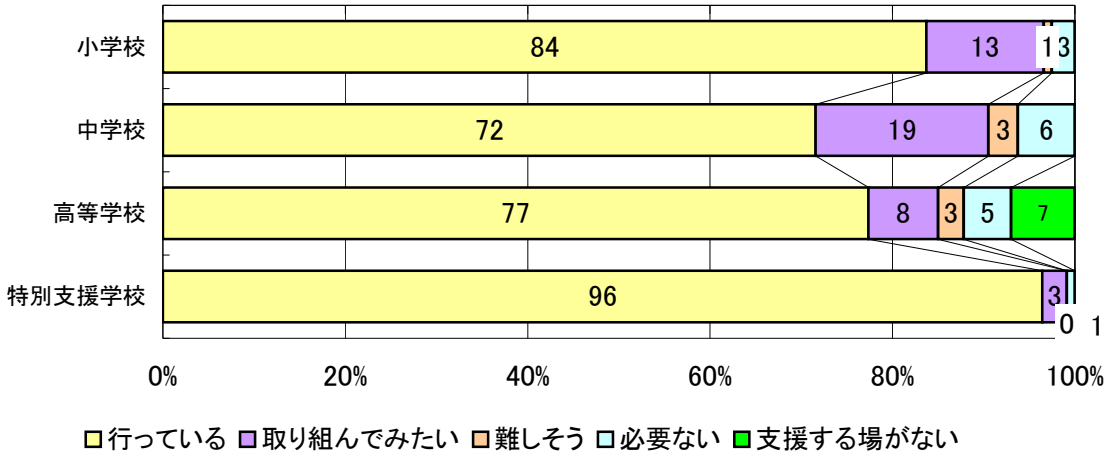
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第１位を四捨五入）



⑨言葉を言いかえたり，選択肢を提示したりするなど，答えやすい配慮をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	858	132	9	26	
中学校	287	76	13	25	
高等学校	222	22	8	15	20
特別支援学校	108	3	0	1	

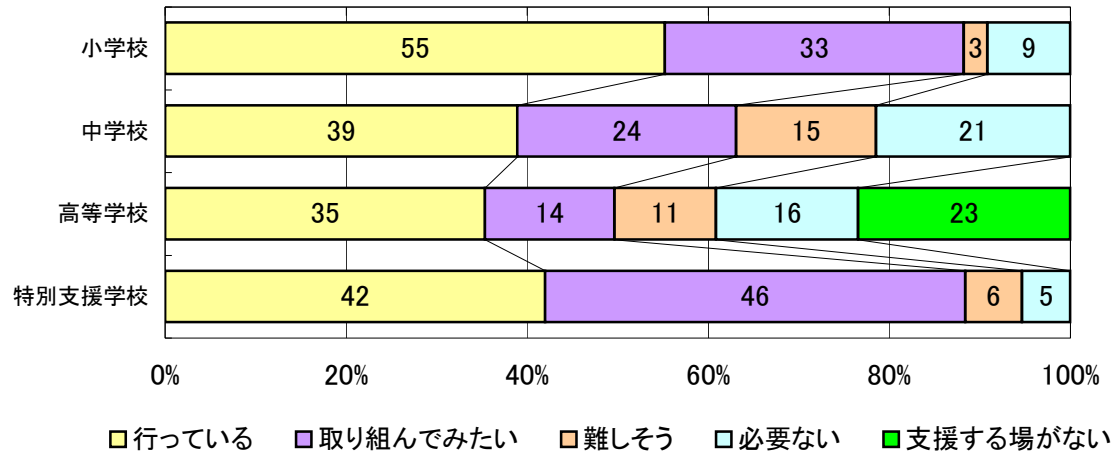
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑩「声の大きさ表」等を活用して，適切な声の大きさで話ができるようにしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	567	339	27	94	
中学校	156	97	62	86	
高等学校	101	41	32	45	67
特別支援学校	47	52	7	6	

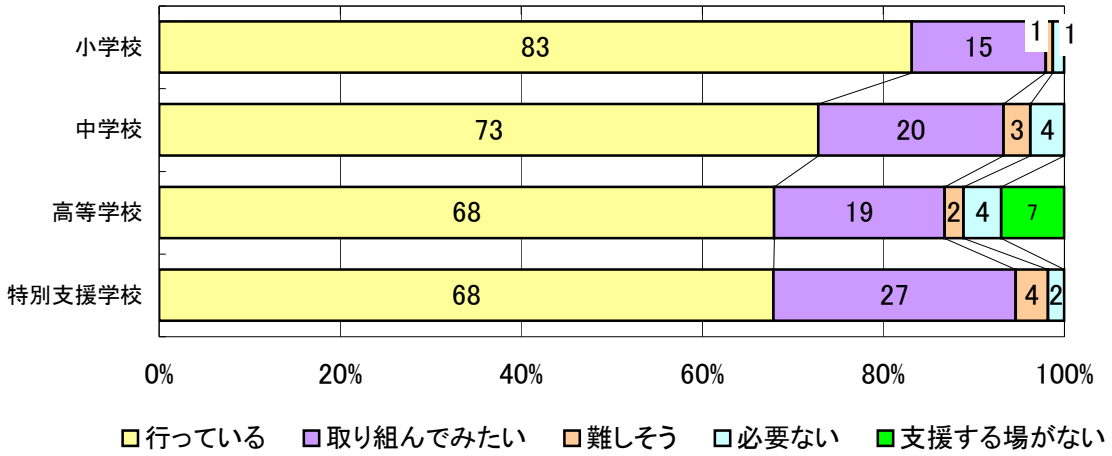
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑪意見を聞く際に，考えをまとめる時間を確保している。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	852	152	8	13	
中学校	292	82	12	15	
高等学校	195	54	6	12	20
特別支援学校	76	30	4	2	

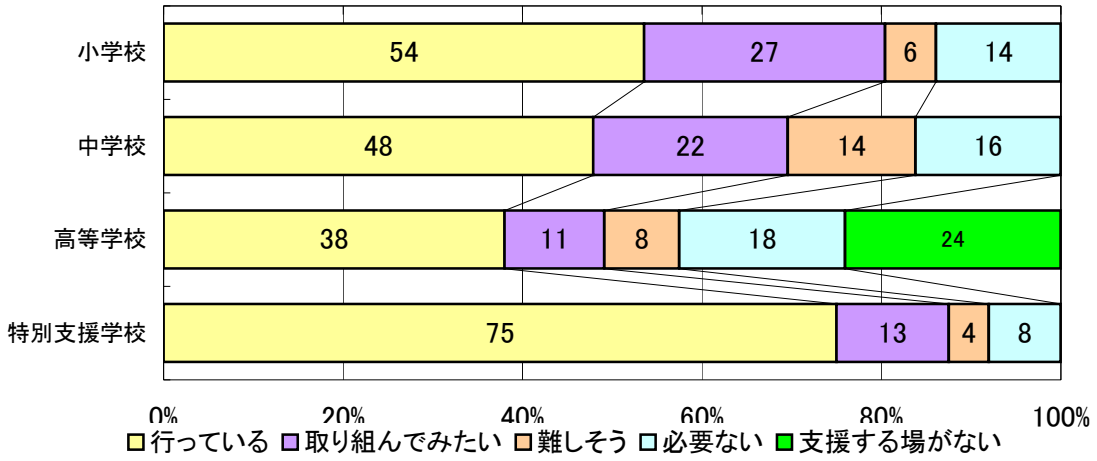
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑫漢字を書くことが苦手な児童生徒に，平仮名の回答を認めるなどの配慮をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	550	276	58	143	
中学校	192	87	57	65	
高等学校	109	32	24	53	69
特別支援学校	84	14	5	9	

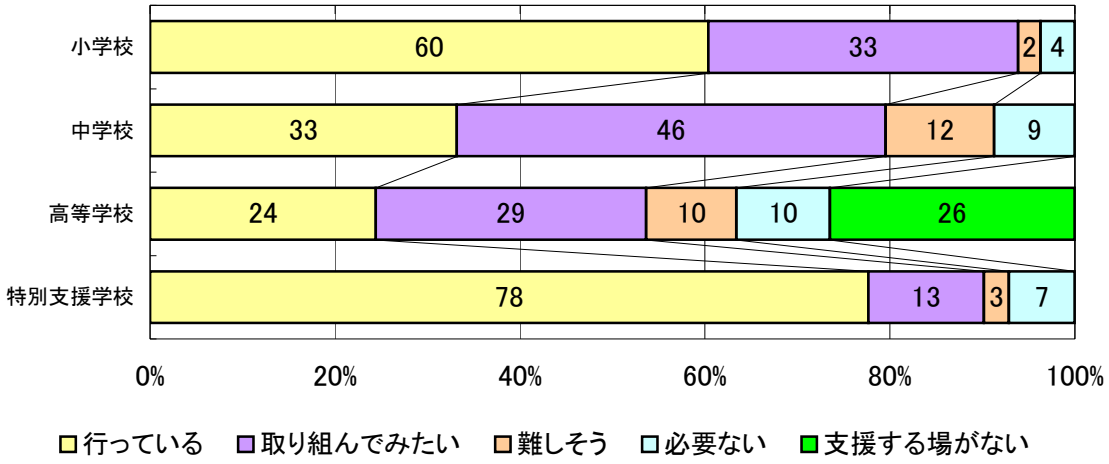
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑬作文等文章を書くときに，考えやすい手だて（写真・校外学習のしおり等）を準備して使えるようにしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	620	344	25	38	
中学校	133	186	47	35	
高等学校	70	84	28	29	76
特別支援学校	87	14	3	8	

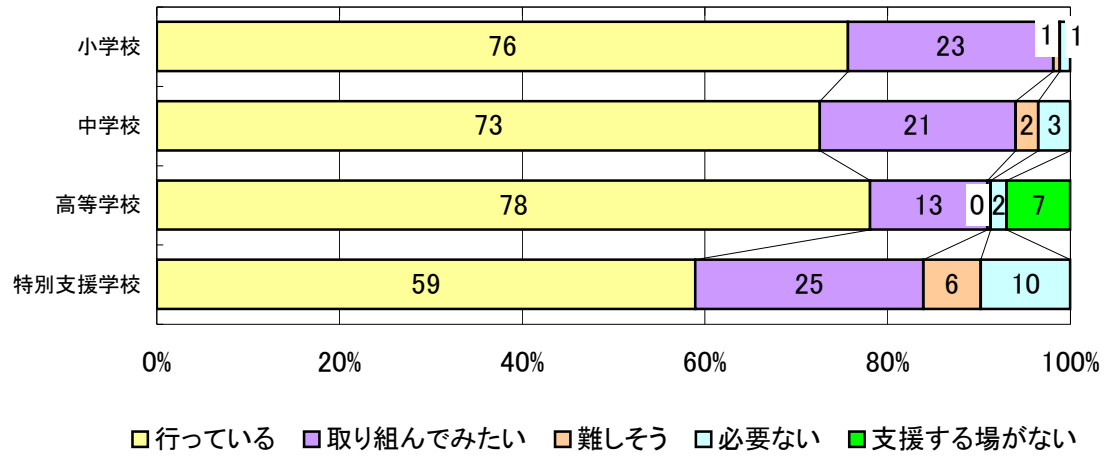
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑭わかりやすく写しやすい板書の工夫をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	776	231	7	12	
中学校	291	86	10	14	
高等学校	224	37	1	5	20
特別支援学校	66	28	7	11	

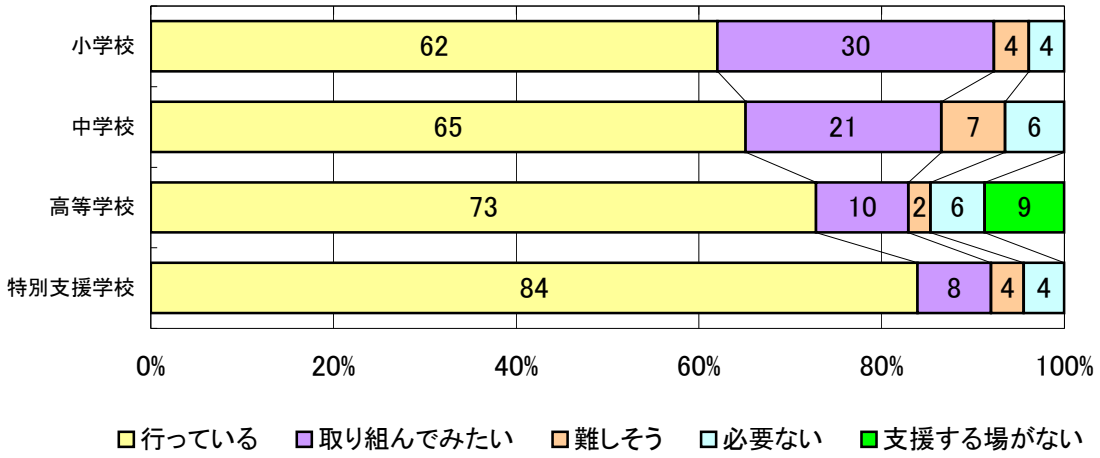
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑮プリント等を準備して，書くことの量的な配慮をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	637	311	39	40	
中学校	261	86	28	26	
高等学校	209	29	7	17	25
特別支援学校	94	9	4	5	

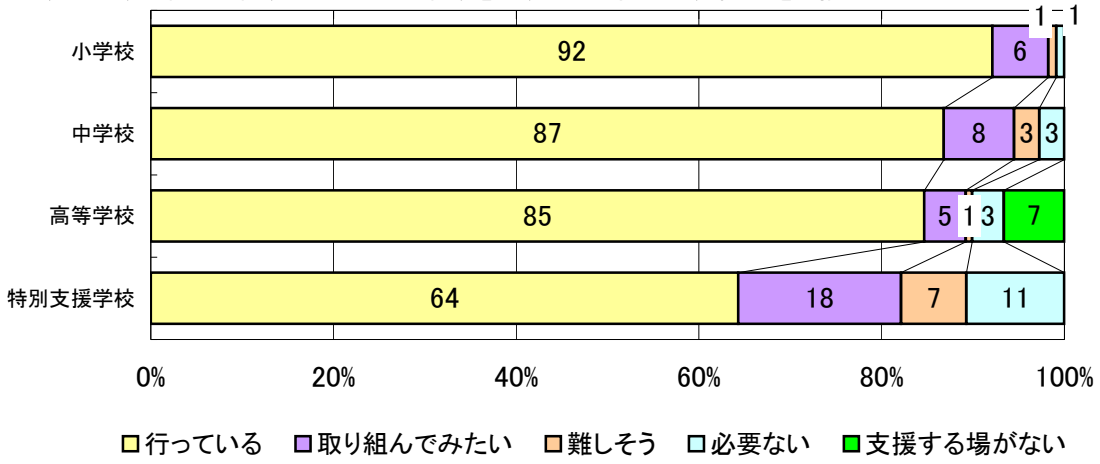
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑯板書を写す時など，書く時間を確保している。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	946	63	9	9	
中学校	348	31	11	11	
高等学校	243	13	2	10	19
特別支援学校	72	20	8	12	

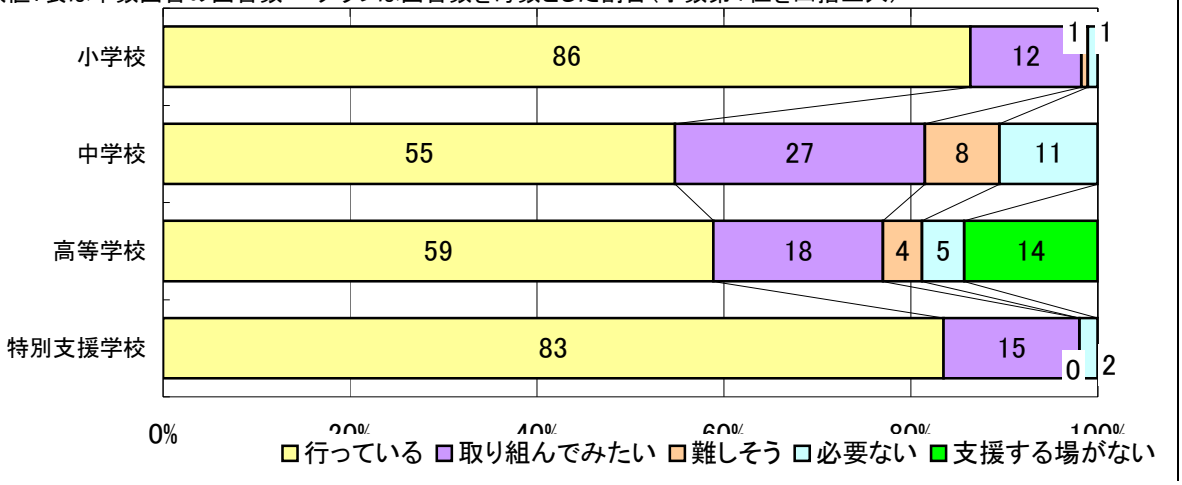
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑰具体物や図等，視覚的な手だてを取り入れて理解を図るようにしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	887	122	7	11	
中学校	219	107	32	42	
高等学校	169	52	12	13	41
特別支援学校	86	15	0	2	

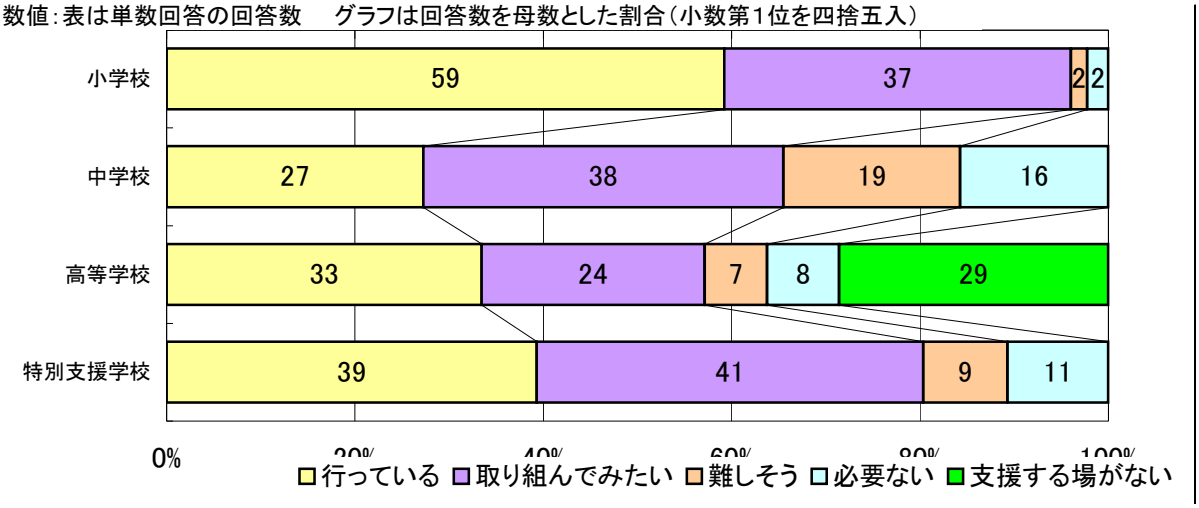
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑱既習事項(公式，計算手順表，九九表等)を，必要に応じて使えるように用意している。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	608	378	18	23	
中学校	109	153	75	63	
高等学校	96	68	19	22	82
特別支援学校	44	46	10	12	

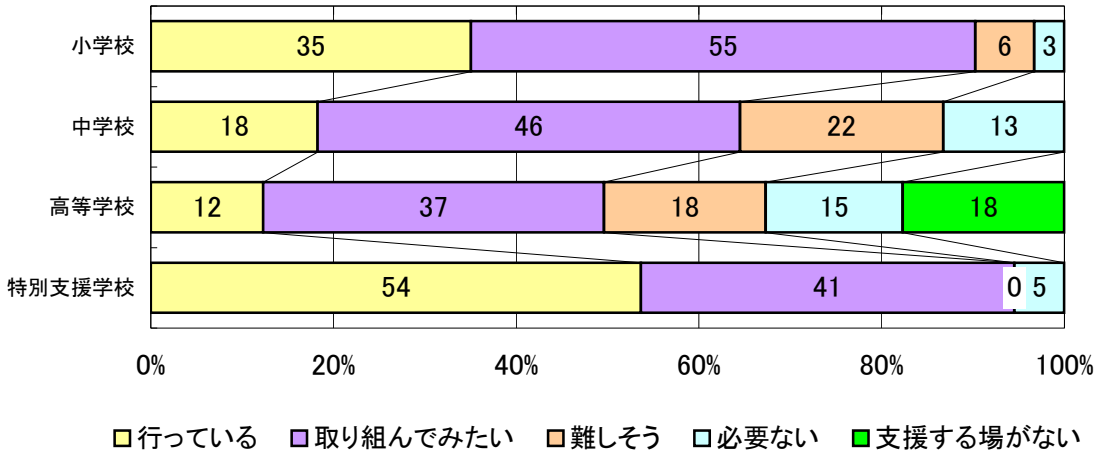
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑲ヒントとなるカード等を用意して，理解を促す配慮をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	360	567	66	34	
中学校	73	185	89	53	
高等学校	32	97	46	39	46
特別支援学校	59	45	0	6	

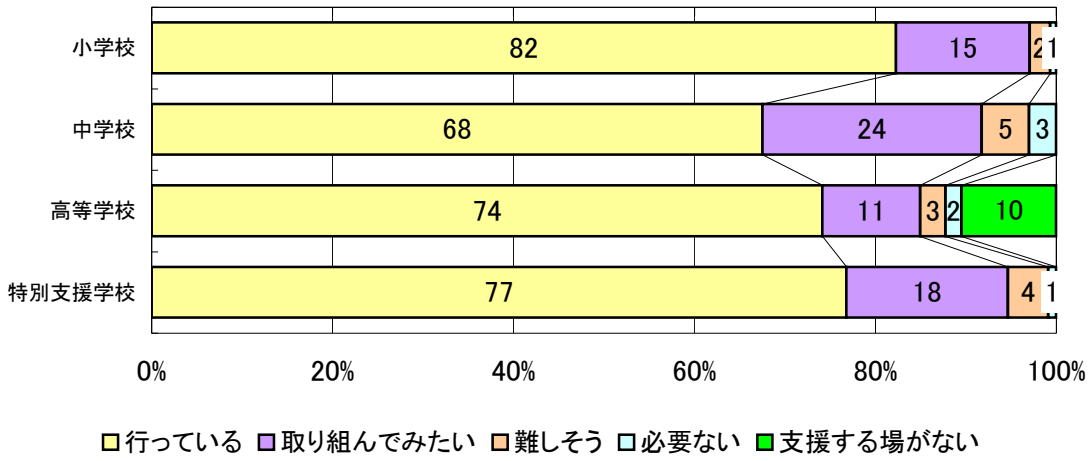
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



⑳課題に十分取り組める時間や考える時間を確保している。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	845	152	23	7	
中学校	270	97	21	12	
高等学校	212	31	8	5	30
特別支援学校	86	20	5	1	

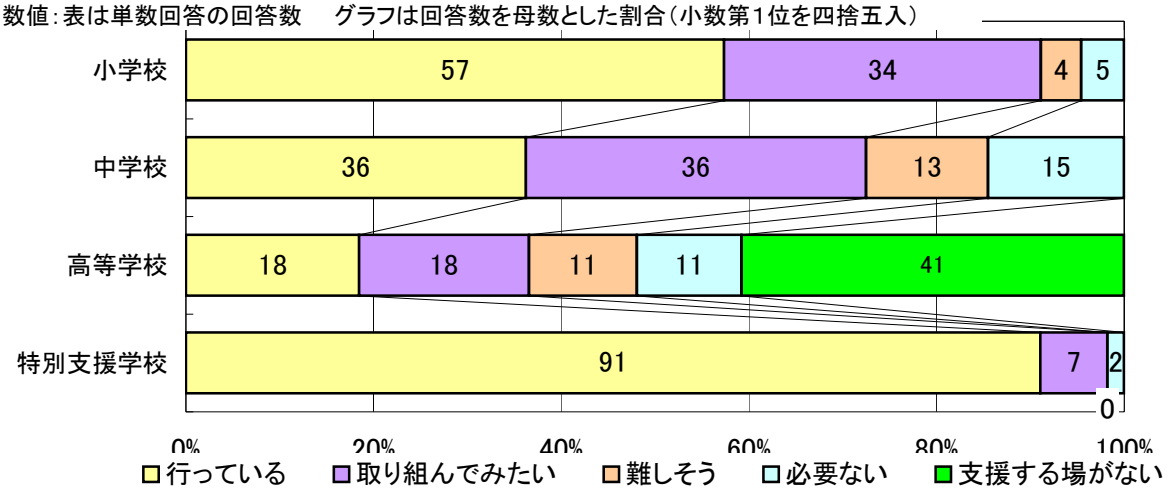
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉑運動面（運動会・体育祭等を含め）で，一人一人に応じた目標設定をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	588	346	44	47	
中学校	145	145	52	58	
高等学校	53	52	33	32	117
特別支援学校	102	8	0	2	

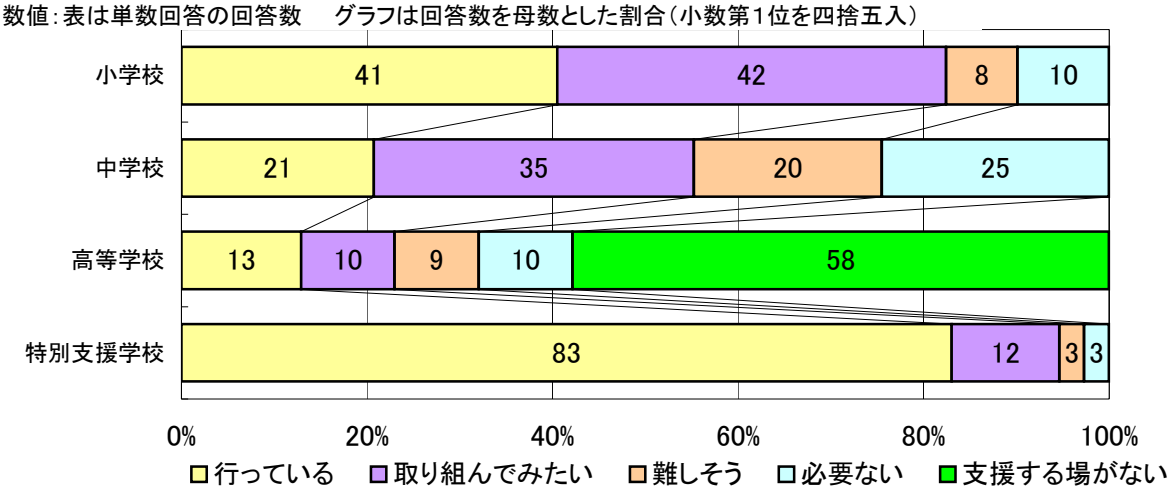
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉒演奏や制作(製作)等が苦手な児童生徒に，別の楽器や制作(製作)手段の選択を認めている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	415	429	79	101	
中学校	83	138	81	98	
高等学校	37	29	26	29	166
特別支援学校	93	13	3	3	

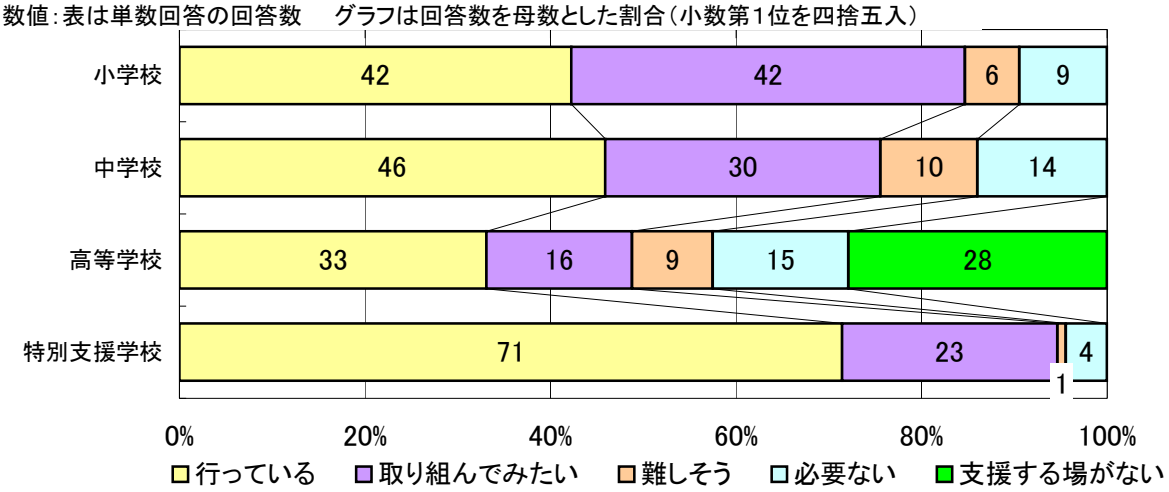
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉓ロッカーの整理がしやすいように，ラベル等で視覚化して示している。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	433	435	60	97	
中学校	184	119	42	56	
高等学校	95	45	25	42	80
特別支援学校	80	26	1	5	

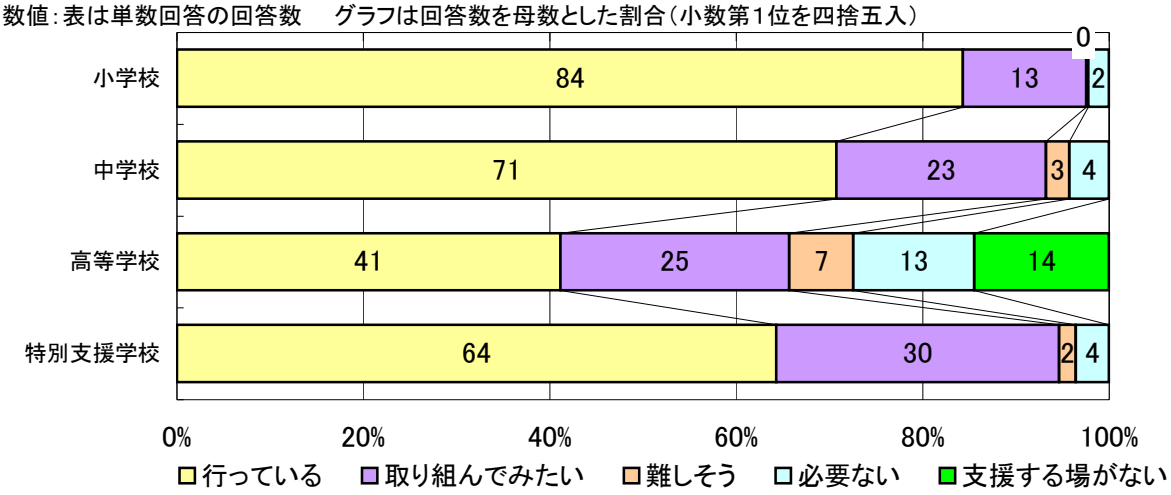
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉔学級の中で授業準備のルールを決めている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	865	136	2	23	
中学校	283	90	10	17	
高等学校	114	68	19	36	40
特別支援学校	72	34	2	4	

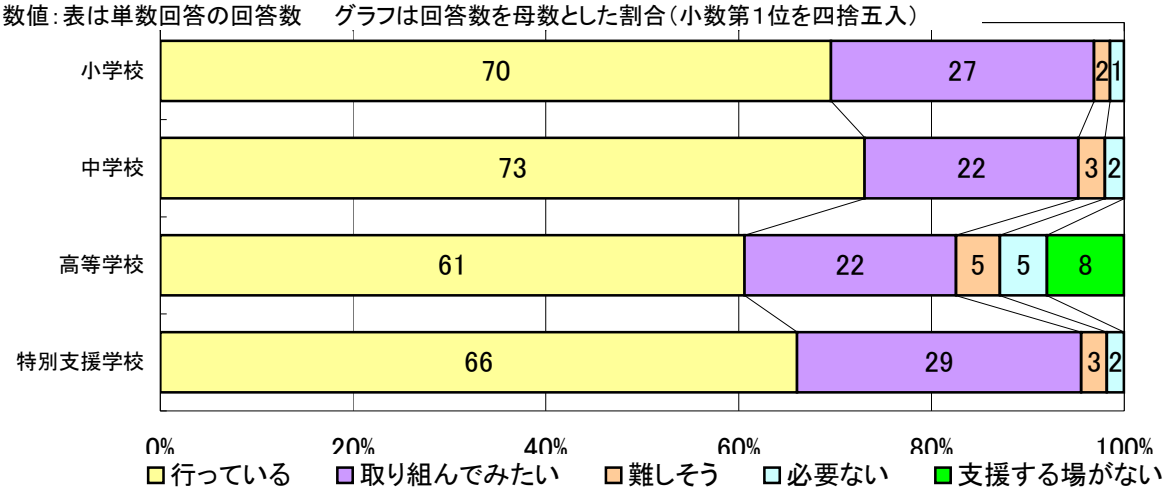
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉕黒板やその周囲の掲示物は，整理して統一感を持たせている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	714	280	17	15	
中学校	293	89	11	8	
高等学校	174	63	13	14	23
特別支援学校	74	33	3	2	

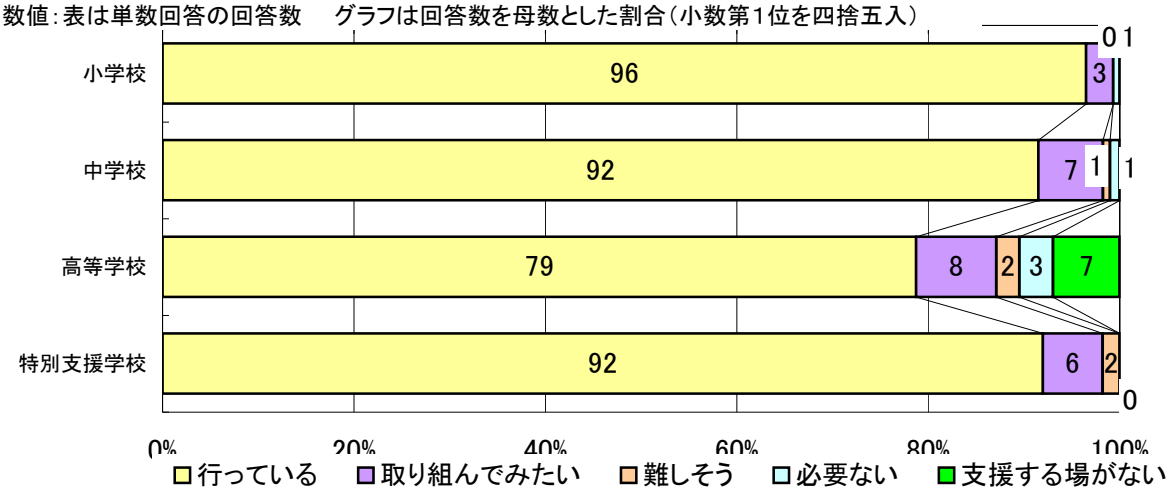
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉖どの児童生徒にも，係活動等自分の役割を果たす場面を用意している。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	990	29	0	7	
中学校	367	27	3	4	
高等学校	226	24	7	10	20
特別支援学校	103	7	2	0	

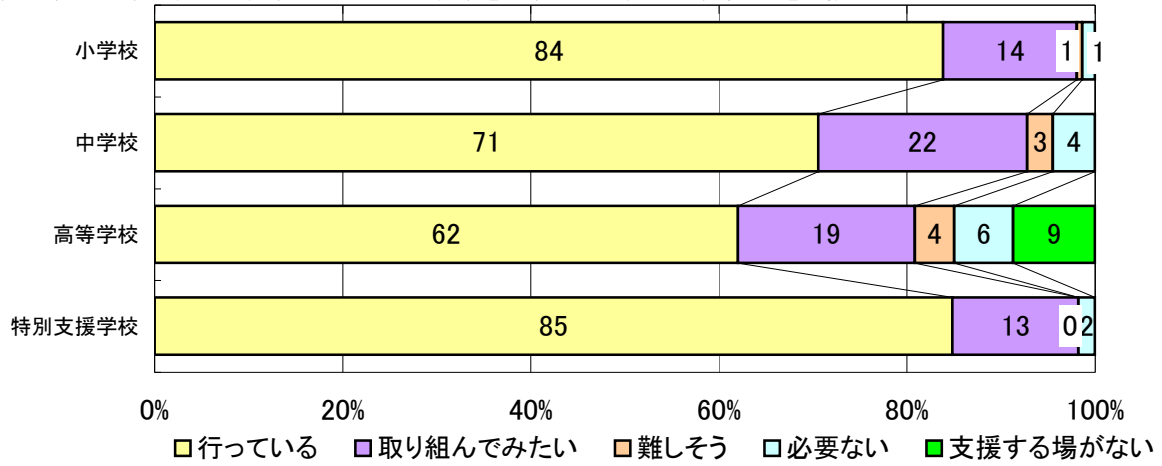
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉗取り組む時間を事前に示す配慮をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	860	146	6	14	
中学校	283	89	11	18	
高等学校	178	54	12	18	25
特別支援学校	95	15	0	2	

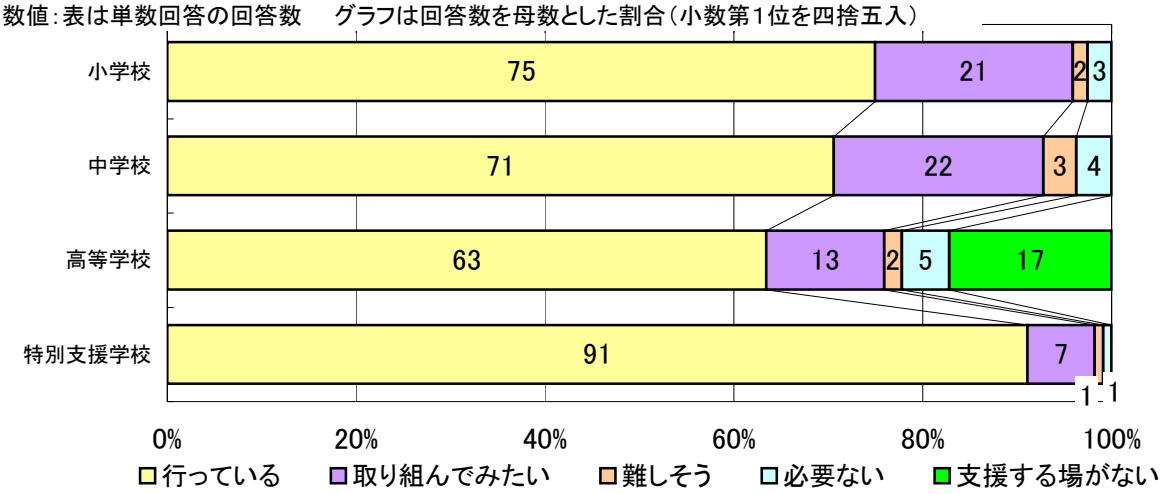
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉘予定表を提示したり変更点を分かりやすく提示したりしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	769	215	16	26	
中学校	283	89	14	15	
高等学校	203	40	6	16	55
特別支援学校	102	8	1	1	

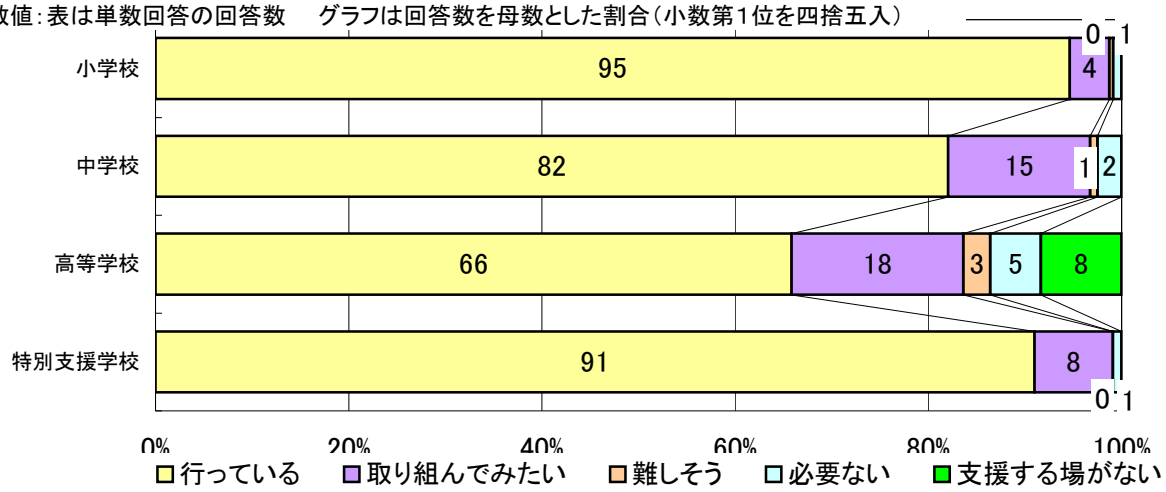
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉙授業の始めや節目に，姿勢を正すような言葉をかけている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	971	42	4	9	
中学校	329	59	3	10	
高等学校	189	51	8	15	24
特別支援学校	101	9	0	1	

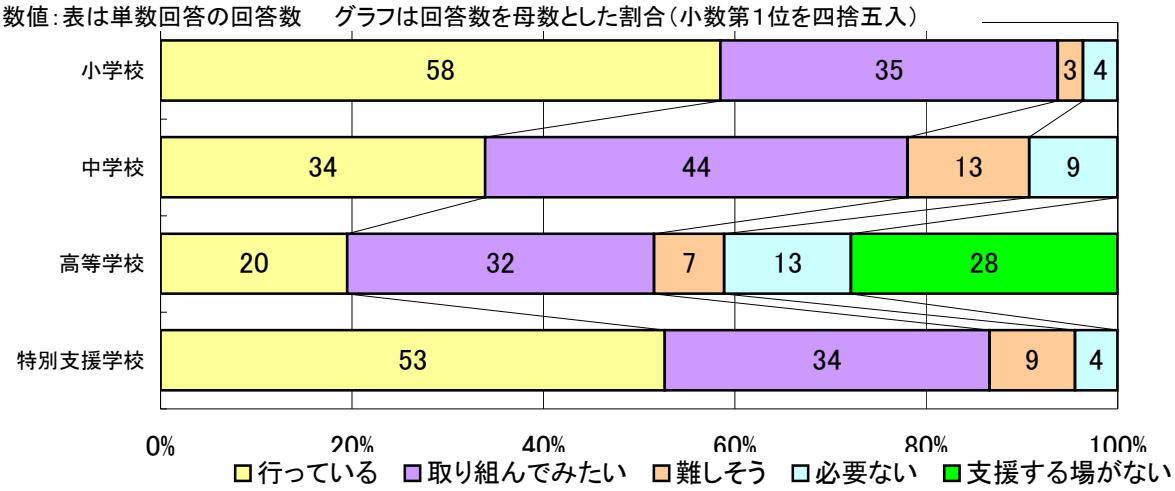
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉚ 「〇回やったら交代する」「〇時〇分になったらできる」などのルールを仲間同士でつくることを進めている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	600	362	27	37	
中学校	136	177	51	37	
高等学校	56	92	21	38	80
特別支援学校	59	38	10	5	

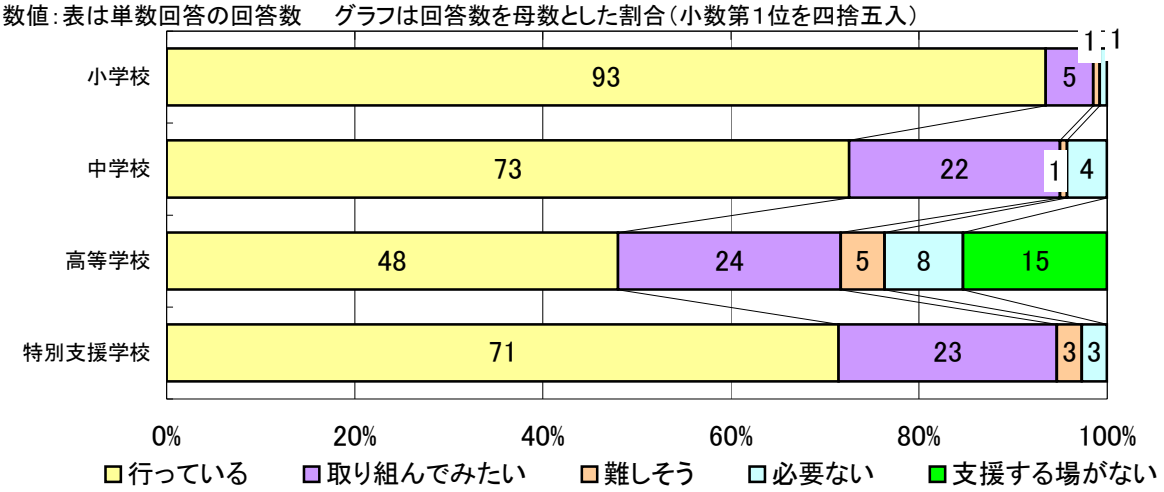
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉛話は最後まで聞くよう，ルールを決めている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	959	52	7	8	
中学校	291	90	3	17	
高等学校	144	71	14	25	46
特別支援学校	80	26	3	3	

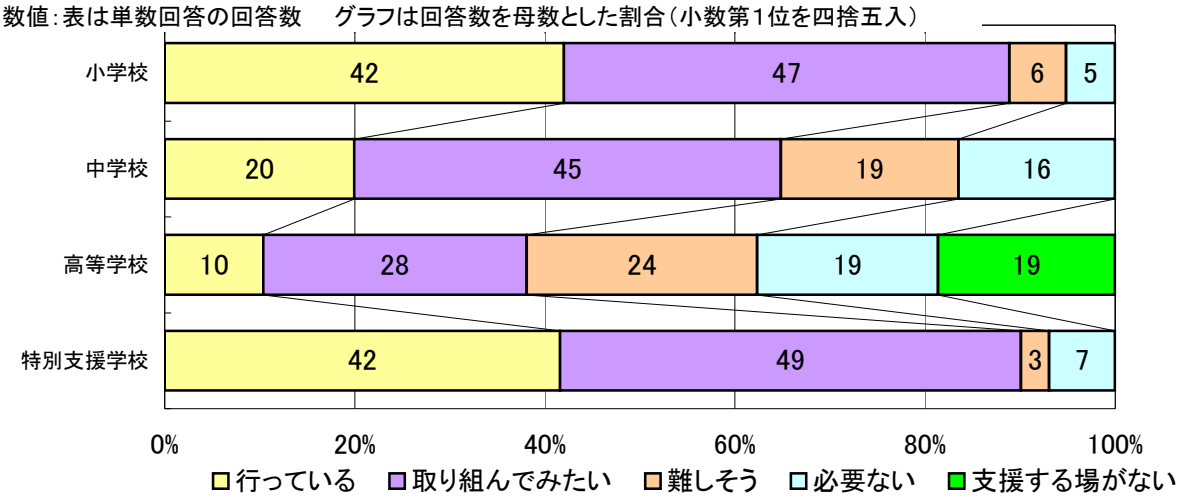
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉜表情カードを活用したり，言われると「いい気持ちになる言葉」や「嫌な気持ちになる言葉」を具体的に伝えたりしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	431	481	61	53	
中学校	80	180	75	66	
高等学校	24	64	56	44	43
特別支援学校	42	49	3	7	

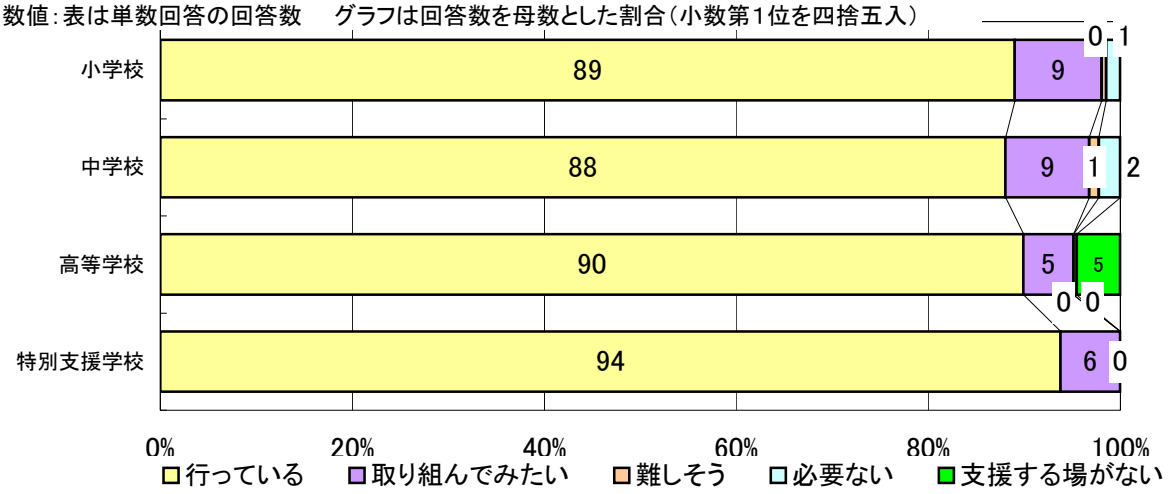
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉝行事の日程等は事前に明確に伝えている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	913	93	5	15	
中学校	353	35	4	9	
高等学校	258	15	0	1	13
特別支援学校	105	7	0	0	

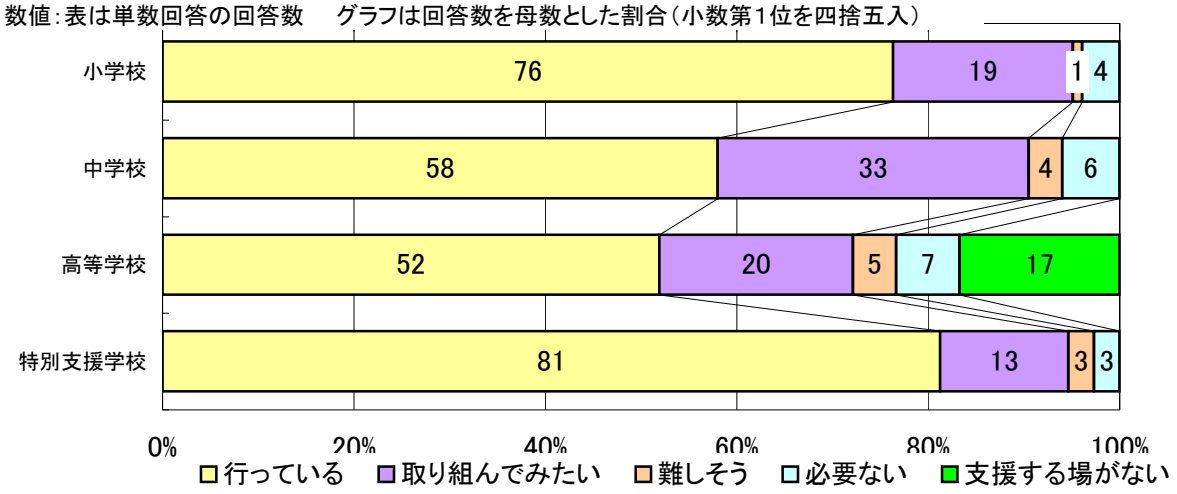
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉞「〇〇になったら□□に変更します」などと，切り替えを促す配慮をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	783	193	10	40	
中学校	232	130	14	24	
高等学校	149	58	13	19	48
特別支援学校	91	15	3	3	

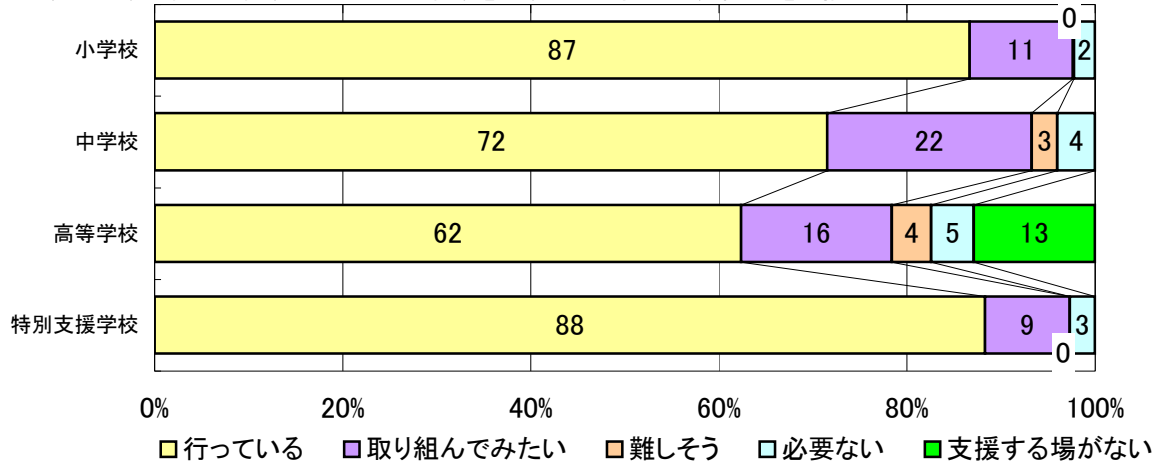
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㉟「〇時〇分まで頑張ろう」と目標を設けるなどして，集中できるようにしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	889	113	1	23	
中学校	286	87	11	16	
高等学校	179	46	12	13	37
特別支援学校	98	10	0	3	

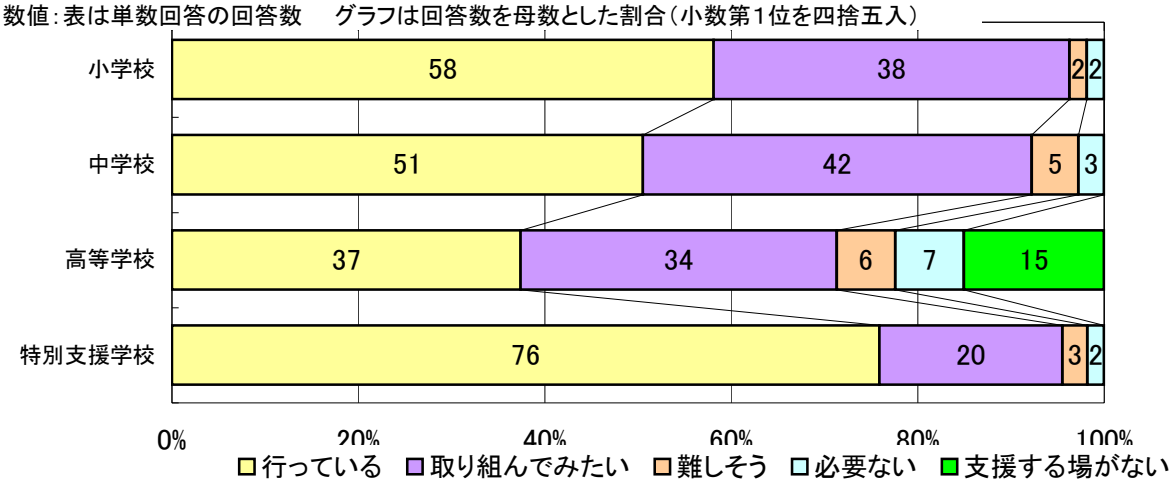
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㊱グループ活動等では，一人一人の役割がはっきりわかるように提示している。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	596	392	19	19	
中学校	202	167	20	11	
高等学校	107	97	18	21	43
特別支援学校	85	22	3	2	

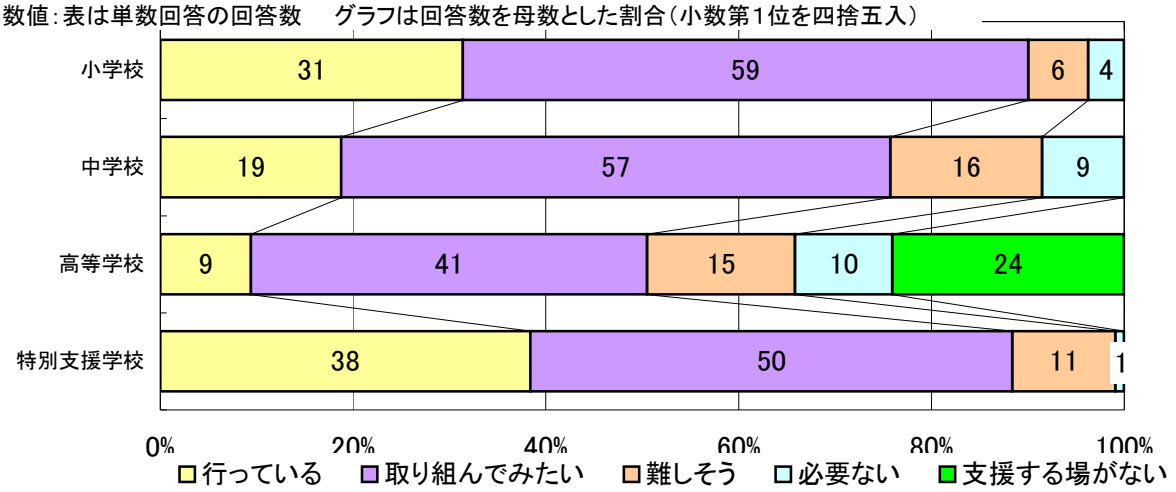
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㊲ロールプレイ等を用いて人とのかかわり方について学ぶ機会を設けている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	322	602	64	38	
中学校	75	228	63	34	
高等学校	27	118	44	29	69
特別支援学校	43	56	12	1	

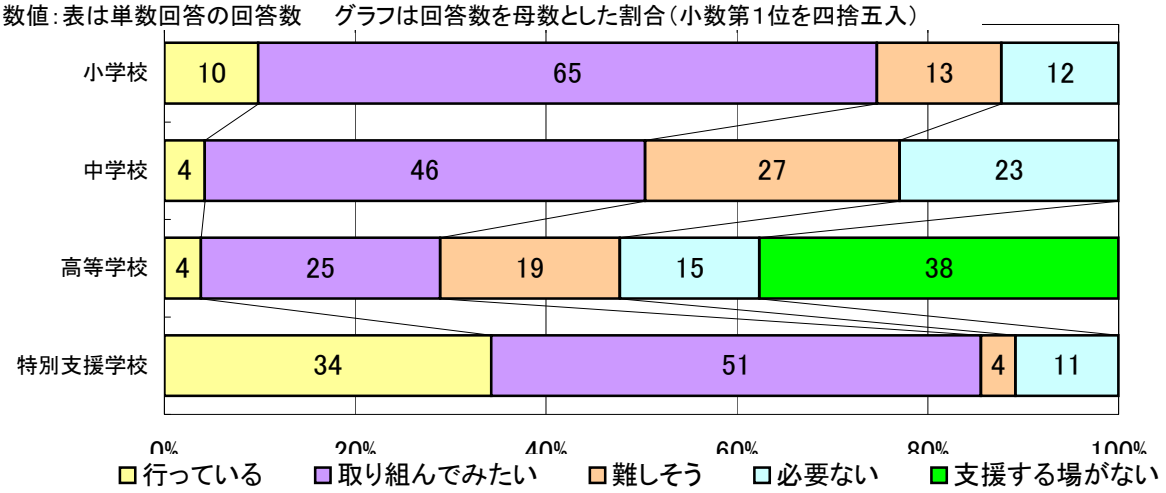
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㊳気持ちを表す表情や文字のカード等を用意して，自分の気持ちを伝えられるような配慮をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	101	665	134	126	
中学校	17	185	107	92	
高等学校	11	72	54	42	108
特別支援学校	38	57	4	12	

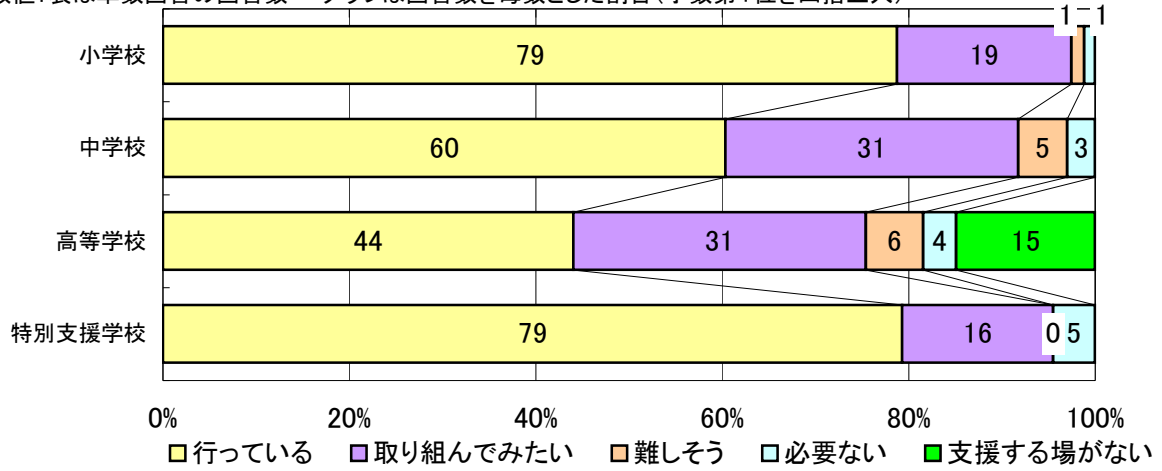
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㊴仲間同士でコミュニケーションをとるきっかけとなるような活動を行っている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	808	192	14	12	
中学校	242	126	21	12	
高等学校	136	97	19	11	46
特別支援学校	88	18	0	5	

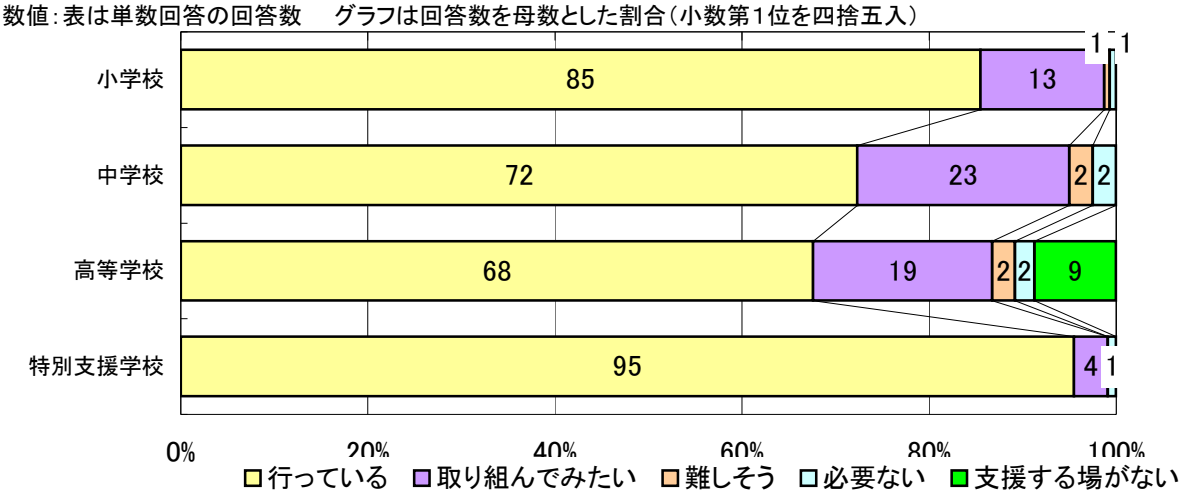
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



㊵最後までできる活動内容を用意したり，できることをほめたり励ましたりして，自尊感情を高めるための配慮をしている。

	行っている	取り組んでみたい	難しそう	必要ない	支援する場がない
小学校	877	136	6	7	
中学校	290	91	10	10	
高等学校	194	55	7	6	25
特別支援学校	106	4	0	1	

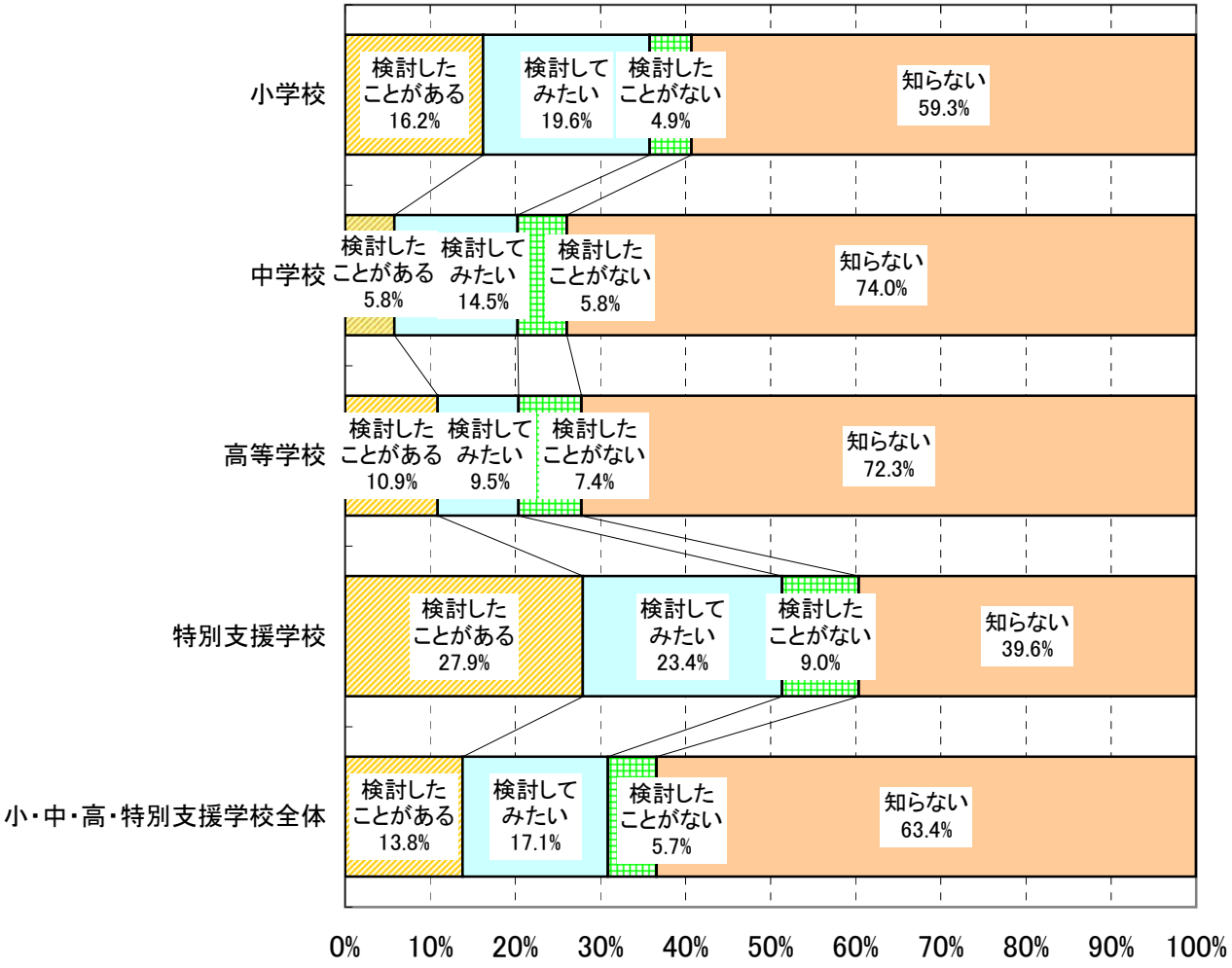
数値：表は単数回答の回答数　グラフは回答数を母数とした割合（小数第1位を四捨五入）



（6）”ユニバーサルデザイン”についての認知度

数値：上段は単数回答の回答数　下段は合計数（「知っている」「知らない」の回答数の合計）に対しての割合。
※「検討したことがある」「検討してみたい」「検討したことがない」は，「知っている」と回答した教員のみが回答できるようにした

	知っている			知らない	合計
	検討したことがある	検討してみたい	検討したことがない		
小学校	166 16.2%	201 19.6%	50 4.9%	608 59.3%	1025 100.0%
中学校	23 5.8%	58 14.5%	23 5.8%	296 74.0%	400 100.1%
高等学校	31 10.9%	27 9.5%	21 7.4%	206 72.3%	285 100.1%
特別支援学校	31 27.9%	26 23.4%	10 9.0%	44 39.6%	111 99.9%
小・中・高・特別支援学校全体	251 13.8%	312 17.1%	104 5.7%	1154 63.4%	1821 100.0%

”ユニバーサルデザイン”についての意識（割合）

数値：それぞれの対象者の合計数に対しての割合（上の表を参照）